

ダブルホーム



地域と共に創る「新たなふるさと」

2023年度 活動報告書



新二郎 & 新二郎 Jr.



真の強さを学ぶ。
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY



はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をととして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップ（社会に対する責任感）やチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから16年目を迎えた2023年度は、学生367人、教職員65人が参加しました。新型コロナウイルス感染症対策等の制約も緩和され、地域の皆様のご理解とご協力を賜り、地域での活動を継続することができました。また、柏崎市別保地区で活動するCホーム「かしわっこ」が誕生しました。12月16日には、ダブルホームの意義と未来を共に考えるシンポジウムを対面形式で開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢223人ももの参加があり、参加者のダブルホーム発展への熱意を実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2023年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学 教育基盤機構 未来教育開発部門 ダブルホーム支援室

目次

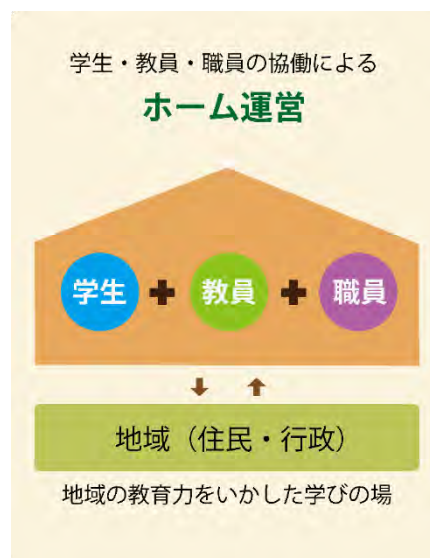
はじめに	01	06 A blange
ダブルホームとは		08 B いろはの風
2023 ダブルホーム活動地域マップ	02	10 C かしわっこ
2023 年度ダブルホーム活動一覧	03	12 D さんせつと
2023 年度ダブルホーム活動の概要		14 E アース・アース
地域実習報告会		16 F Natural
オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」	04	18 G 暖
第 15 回 ダブルホームシンポジウム		20 H ほたる
ダブルホームワークショップ&講演会	05	22 I あい
各ホームの報告	06	24 K かもろに
		26 L 輪～つながる～
		28 N ねすと
		30 Q Sun Q
		32 R あっとほーむ
		34 S しいたけ
		36 T ほりごたつ
		38 U まほろば
		40 V かわせみ

ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

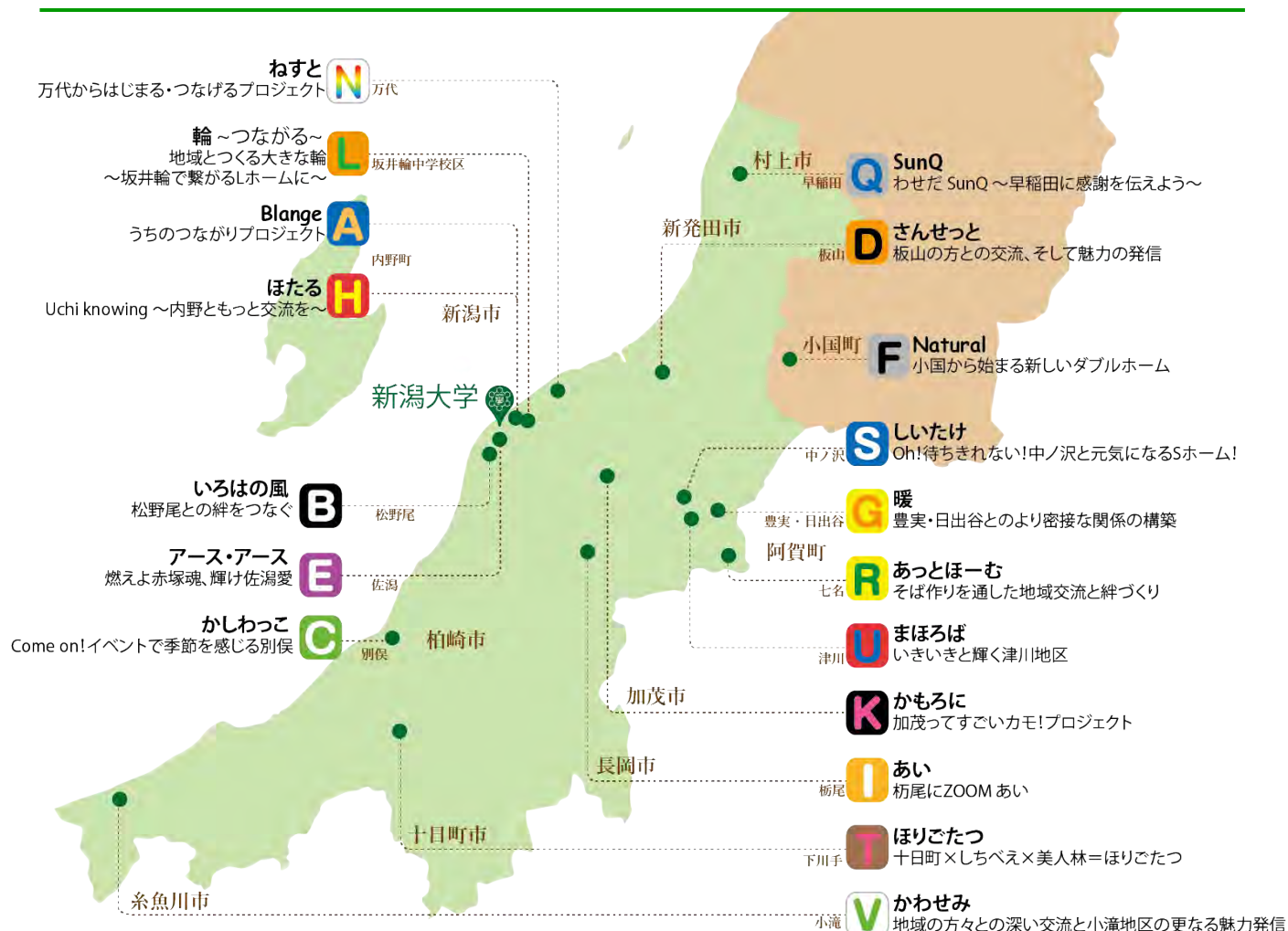


専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。



多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

2023 ダブルホーム活動地域マップ



2023年度 ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 (プロジェクトテーマ)	活動地域	活動内容
	blange (うちのつながりプロジェクト)	新潟市西区 内野町 大学南	・梅プロジェクト ・内野まちあるき ・高校生ワークショップ ・南心会定例会参加 ・新大ランド ・地域行事お手伝い
	いろはの風 (松野尾との絆をつなぐ)	新潟市西蒲区 松野尾地区	・まち歩き ・夏休み学習会 ・田舟乗船体験 ・運動会 ・クリスマス会 ・豆まき会
	かしわっこ (Come on! イベントで季節を感じる別俣)	柏崎市 別俣地区	・川遊び ・音楽祭 ・稲刈り ・ノスタルジックツアー ・コミセン祭り ・収穫祭 ・味噌仕込み ・柏崎冬のフェスティバル ・語ろう! 元気な「べつまた」
	さんせっと (板山の方との交流、そして魅力の発信)	新発田市 板山地区	・たけのこ堀 ・夢まつり ・村歩き ・キッズサマースクール ・ヒメサユリ講習会 ・収穫祭 ・ほやほや ・卒業式
	アース・アース (燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛)	新潟市西区 赤塚地区	・佐潟散策 ・佐潟まつり ・ハスフラワーづくり ・白鳥観察 ・潟普請 ・蓮復活プロジェクト
	Natural (小国から始まる新しいダブルホーム)	山形県小国町 玉川地区	・樽口わらび園手伝い ・地域散策 ・空き家宿泊 ・しめ縄づくり ・木工体験 ・雪堀 ・地域との懇談会
	暖 (豊実・日出谷とより密接な関係の構築)	阿賀町日出谷 豊実地区	・草刈り&笹の葉採集 ・阿賀町探索 ・キャンドルナイト
	ほたる (Uchi knowing～内野ともしっかり交流を～)	新潟市西区 内野町	・まち歩き ・内野まつり ・新大ランド ・新川音楽祭
	あい (栃尾にZOOM あい)	長岡市 栃尾地区	・地域散策&懇談会 ・とちお祭り ・トチオノアカリ ・ユニホッケー体験会 ・遊雪まつり ・保育園訪問
	かもろに (加茂ってすごいカモ! プロジェクト)	加茂市	・加茂祭り ・まち歩き ・カモフリマ ・新潟大学行ってみたいカモツアー ・塞の神
	輪～つながる～ (地域とつくる大きな輪 ～坂井輪で繋がるLホームに～)	新潟市西区 坂井輪中学校区	・まちあるき ・子ども食堂(春・夏・冬) ・防災スキルアップ講習会 ・坂井輪音楽フェスタ ・スマホ教室
	ねすと (万代からはじまる・つなげるプロジェクト)	新潟市 万代地区	・万代散策 ・NSTまつり ・万代シテイ生誕50周年記念特番 ・潟チューブ出演
	SunQ (わせたSunQ ～早稲田に感謝を伝えよう～)	村上市 早稲田地区	・お花見 ・三吉様参拝 ・しめ縄づくり ・敬老会 ・火起こし体験 ・オの神
	あっとほーむ (そば作りを通じた地域交流と絆づくり)	阿賀町 七名地区	・七福の里祭り ・そばの栽培 ・上川そば祭り手伝い ・地域散策
	しいたけ (Oh! 待ちきれない! 中ノ沢と元気になるSホーム!)	阿賀町 中ノ沢地区	・観桜会 ・地域訪問 ・Sホーム通信作成 ・かや刈・木工体験 ・さいの神・雪山散策
	ほりごたつ (十日町×しちべえ×美人林 =ほりごたつ)	十日町市 松之山 下川手集落	・湿地米しちべえの栽培 (苗代作りー田植えー草取りー稲刈りー稲架掛けー脱穀)、販売 ・ホタル観賞 ・道普請(春・秋)
	まほろば (いきいきと輝く津川地区)	阿賀町 津川地区	・まち歩き ・京ノ瀬夏祭り ・つがわ狐の嫁入り行列 ・留学生との交流
	かわせみ (地域の方々との深い交流と小滝地区 の更なる魅力発信)	糸魚川市 小滝地区	・たかなみまつり ・地域散策 ・笹寿司づくり ・小滝ウォーキング ・スキー体験 ・地域レクリエーション ・市役所訪問

2023 年度 ダブルホーム活動の概要

4月	4～11	三菱みらい育成財団助成継続決定 新入生ダブルホーム参加相談会 (対面相談会、写真展)
	4	「ダブルホーム活動入門Ⅰ」開始
	22	ダブルホーム大説明会
5月	18	各ホームへ新加入生合流
	19	第1回学生懇談会
6月	8	「ダブルホーム活動入門Ⅱ」 & 地域実習開始
7月	14	ダブルホーム講演会 1
	14・18	第2回学生懇談会
	22	地域実習報告会
8月	9・10	オープンキャンパス 「ダブルホーム情報館」
9月		
10月	21・22	新大 Week「ダブルホーム情報館」 新大祭 (HとF ホームが出店)
11月	1	ダブルホーム講演会 2
	3・4	ダブルホームワークショップ 1
	8	ダブルホーム講演会 3
12月	12	ダブルホーム講演会 4
	16	第15回ダブルホームシンポジウム 「Our Home ～人・未来へ繋ぐ挑戦～」 ダブルホーム講演会 5
1月	10	第3回学生懇談会
	17	ダブルホーム講演会 6
	27	ダブルホームワークショップ 2
2月	29	2023 年度活動報告書原稿提出
3月	21	2022 年次活動計画書提出
	25	ダブルホーム紹介動画公開



地域実習報告会

2023 年 7 月 22 日 13:00～16:30
総合教育研究棟 E260、B 棟 2・3 階

実行委員代表 高村 健太郎 (F ホーム 経済科学部 2 年)

今年度の地域実習報告会は「活動地域で地域の魅力やな
んとなく気になるもの・ことを発見し、地域との関係づく
りに向けて自分たちで取り組みたいことを考える」をテー
マに開催しました。これまでは新加入生を中心とした発表
が主でしたが、今回は上級生を含めたホーム全体での発表
をメインとし、さらに今後の活動の具体的な企画や計画の
提言も行う形式をとりました。どのホームでも個性的で工
夫が凝らされた発表が見られ、テーマに向けダブルホーム
全体が一丸となって取り組めたと感じています。コロナ禍
が明け、活動が再び活
発になるタイミング
で行った今回の報告
会が、ホームの「これ
まで」と「これから」
を考えるきっかけに
なれば幸いです。



オープンキャンパス ダブルホーム情報館

日時：2023 年 8 月 9 日 (木) 10 日 (金) 10:00～14:00
会場：附属中央図書館 1 階ライブラリーギャラリー

実行委員代表 安孫子 瑠菜 (E ホーム 人文学部 2 年)

「ダブルホーム情報館」は、来場した高校生やその保護
者の方々に、ダブルホーム活動の内容や魅力を知ってもら
うことを目的に開催いたしました。この「ダブルホーム情
報館」は、新型コロナウイルスの影響により過去 3 年間は
動画などを利用して非対面の形で開催していました。しか
し、今回は対面の形で実施することができたことにより、
来場した方々の表情を見て直接ガイドを行えたため、ダブ
ルホームの魅力をもっと熱意をもって伝えられたのではな
いと思います。また、各ホームの学生が、来場者に対し
て各ホームの活動内容の説明やビラ配りによる宣伝を行
うことで、改めて
ダブルホームにつ
いて考え直し、そ
の意欲を高めても
らう機会になった
と感じています。



第15回 ダブルホームシンポジウム

日時：2023年12月16日（土）13:00～17:00

会場：総合教育研究棟 E260・B棟2・3階

実行委員代表 高村 健太郎（Fホーム 経済科学部2年）

「Our Home～人・未来へ繋ぐ挑戦～」をテーマに開催した今年度のシンポジウムは昨年度に引き続き、座談会とホーム展の2部構成での開催となりました。「第1部座談会～Think Our Home～」では学生と地域との関わりについてホームの垣根を越えた話し合いを、「第2部ホーム展～Feel Our Home～」ではホームごとにブースを設置し活動報告や活動地域のPRを行いました。活発な意見交換やホーム間の交流が見られ、皆さんがダブルホームの未来を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。シンポジウム後には、コロナ禍で中止となっていた懇親会が復活するなど、ダブルホームの日常が少しずつ戻ってきています。シンポジウムで得たものをもとに、今後ダブルホームがさらに良い活動になっていくと嬉しいです。



ダブルホーム講演会 & ワークショップ

学生から地域活動への意欲向上に向けて卒業生や外部専門家等との連携を望む声があり、ダブルホーム活動を通して必要と感じた学びを深めるため、ダブルホームワークショップ全2回と講演会6回を7月から1月末までに実施しました。参加学生の学習ニーズをアンケート調査により再確認し、卒業生を中心とした講師による講演会を実施しました。コミュニケーション、地域との関わり方、卒業後のダブルホーム活動の活かし方などがテーマです。

学生の関心が高い広報を学ぶ授業「地域共創演習Ⅰb」を新規に開講し、受講生以外も参加可能なワークショップとしました。また、「地域共創演習Ⅰ」のプロジェクトマネジメントの実践として3チームが講演会を企画・運営しました。



日時	内容	参加者数
7/14(金) 12:00～ 12:45	講演会 1 地域と共に歩む～ダブルホームで得た経験から～ 場所:総合教育研究棟 B 棟 4 階 B455 講師:安部 望 氏 (I ホーム 2014 年度卒業生) 新潟市西区役所勤務	参加者:学生 17 人 教職員:5 人
11/1(水) 18:05～ 19:05	講演会 2 学生生活で鍛える!コミュニケーション力講座 場所:総合教育研究棟 B 棟 5 階プレゼンルーム 講師:伊藤 真子 氏 (I ホーム 2015 年度卒業生) 株式会社マイナビ キャリアサポーター	参加者:学生 5 人 教員:3 人
11/3(金) 11/4(土) 13:00～ 16:00	地域共創演習Ⅰb&ダブルホームワークショップ 1 地域の戦略的な PR 手法 場所:新潟大学附属中央図書館 2 階プレゼンエリア 講師:菅原 豊 氏 (戦略 PR プロデューサー)	授業兼 WS 受講生 7 人、他学生 3 人
11/8(水) 18:10～ 19:40	講演会 3 公務員に学ぶ!地域に飛び出す「はじめての一步」 場所:総合教育研究棟 B 棟 5 階プレゼンルーム 講師:川崎 陽介 氏 (S ホーム 2011 年度卒業生) 新潟市西区役所勤務	地域共創演習Ⅰ 受講生企画① 学生 10 人、教職員 2 人
12/12 (火) オンライン 開催	講演会 4 #葉山町に学ぶ ホームの魅力を引き出す Instagram 活用術 場所:総合教育研究棟 B 棟 5 階プレゼンルーム 講師:宮崎 愛子 氏 (葉山町職員)	地域共創演習Ⅰ 受講生企画② 学生 25 人、地域・卒業生 4 人、教職員 4 人
12/20 (水) 18:10～ 19:40	講演会 5 地域おこしってなんだろう?現場から学ぶ! ～地域と関わるプロセス～ 場所:総合教育研究棟 B 棟 5 階プレゼンルーム 講師:上田 幹久 氏 (元・地域おこし協力隊新潟市職員・D ホーム世話人)	地域共創演習Ⅰ 受講生企画③ 学生 20 人、教職員 3 人
1/17(水) 18:10～ 19:40	講演会 6 じぶんの暮らしはじぶんでつくる ～新潟市古町に面白い人材が集まっているって、ほんと?～ 場所:総合教育研究棟 B 棟 5 階プレゼンルーム 講師:小林 紘大 氏 (8BAN リノベーション副代表、株式会社新潟家守舎代表) 稲葉 一樹 氏 (8BAN リノベーション代表、 新潟市役所都市政策課にいたが 2km ウォーカブル担当)	参加者:学生 5 人 教員:3 人
1/27(土) 13:00～ 16:00 1/28(日) 10:00～ 13:00	地域共創演習Ⅰb&ダブルホームワークショップ 2 地域の戦略的な PR 手法 場所:新潟大学附属中央図書館 2 階プレゼンエリア 講師:菅原 豊 氏 (戦略 PR プロデューサー)	授業兼 WS 受講生 7 人、他学生 3 人



ホームの概要

メンバー構成： 1年生5人、2年生5人、
3年生8人、4年生2人、
教員2人、職員1人

活動地域： 新潟市西区大学南
・内野地域

関連団体： 南心会（大学南）

ミーティング： 平日昼休み週1回程度（テ
スト期間を除く）

成果物・制作物



梅シロップかき氷

大学南が丘夏祭りで販売



卒業記念植樹

卒業生による梅の苗の植樹

活動目的と概要

A ホームの活動は大学南・内野地区を拠点としています。五十嵐キャンパスに近いので、徒歩でアクセスでき、例年多くの活動が行われているため、地域の方々との交流が盛んでつながりが強いホームです。継続率が高く（やめる人が少ない）、メンバー間の関係作りも大切にしており、全員が主体的に活動できるような環境作りも心掛けています。地域の方々をはじめ多くの人と互いに協力し合って活動を行うことを大切にしています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

地域の方々と協働で行う梅プロジェクトで、今年度は例年度よりも多くの梅の実を採集できました。そして、試飲会で地域の方々と梅シロップを楽しんだだけでなく、コロナ禍明け初の大学南が丘夏祭りにおいて、梅シロップのかき氷として、多くの方々に梅シロップを味わっていただきました。地域の方々に協力してもらって作った梅シロップを地域の方々に味わってもらうという形で地域に還元できたのは成果として挙げられると思います。また、梅の植樹について、昨年に引き続き植樹を学生と地域の方々とで行いました。梅の苗を植えるための穴を掘ったり、肥料をまいたりして、無事に卒業生が梅の苗を植樹することが出来ました。一方で、梅プロジェクトが地域資源を活用しきれているとは言えないため、どのように地域と梅プロの結びつきを強くしていくかが課題です。また、南心会定例会では、活動の振り返りや今後の活動の共有を行う場として機能してきたと思いますが、毎回参加する学生が限られることもあり、その場で学生と地域の方々とのつながりを深めることは難しかったことも課題として挙げられます。

【ホーム運営について】

次年度の活動がスムーズに行われるように、引継ぎ資料を作成し、各活動の係が事前準備から活動当日の流れまで、具体的に何を行うのかを明確にしました。また、新加入生が快適に活動できるように、新加入生主体の日本文理高校との共同授業や、地域実習報告会についての相談に乗る係を設置しました。ミーティングについては、タームごとに曜日を変えることで学生の参加人数を増やそうと試みました。課題としては、活動ごとに係が孤立してしまい、別々の活動の係同士が相談しづらい環境であったことが挙げられます。また、ミーティングにおいて、他の課外活動が忙しい学生も多く、出席率を上げられなかったことや、活動についての事務連絡だけでミーティング時間が過ぎてしまうことも多く、活動内容に踏み込んだ話し合いが出来なかったことも課題として挙げられます。

活動を通して学んだこと

私はこの一年で、ホームの運営に参加し、普段はあまり関わることのない地域の方と関わったなどの貴重な社会経験を得ることができました。来年には後輩ができるので今年の実験を活かして、自身の成長だけでなく、自分がしてもらったように後輩を助けられるようになりたいと考えています。

杵鞭 桐志（人文学部1年）

大学南が丘夏祭りの運営に携わらせていただいたことは、貴重な経験でした。夏祭りの運営に関わる地域の方々の、絶対に成功させるという強い意志を感じ取ることができました。そのような地域の方々の地域に対する思いに、学生がこたえていくような活動をしていきたいです。

狩野 匠登（法学部2年）

1年間で最も印象に残っているのは、「大学生と関わることで、私たちは元気をもらっている」と地域の方に言っていただけたことです。2023年度は活動の幅が広がり、変化の多い1年でしたが、その中でもやり切ったチーム力を大切に、来年度さらに濃い活動ができればと思います。

渡辺 丈一郎（工学部3年）

今年度の活動はより地域の方との関係を深められるものでした。これまでの学生主体の活動だけでなく、地域の行事にも参加することができたため、リアルな地域の声を吸収することが出来ました。今後も地域とAホームで二人三脚で歩んでいけたらと思います。

小林 鈴果（経済科学部4年）

今後に向けて

以前、ホームメンバーを対象にしたアンケートを取ったところ、梅プロジェクトが全ての活動の中で最も大切にしたいと考えられていることが分かりました。しかし、梅プロの現状は地域資源を有効活用できているとは言えず、限られた地域で少数の地域の方々との交流にとどまることから、地域貢献の色が弱いと思います。よって、本プロジェクトをどのように地域と結びつけていくかという点を今後模索していく必要があります。なお、今年度は夏祭りで梅シロップかき氷を多くの地域の方々に楽しんでもらえ、地域に還元するという点で大きな成果となりました。したがって、このような成果を振り返りつつ、今後は地域の方々の声を聞いたうえで、学生と地域全体を結ぶ架け橋の役割として梅プロを発展させたいと考えています。また、ホーム運営において、昼休みのミーティングでは、その活動が誰を対象にどのような目的で行われるのかという点を含め、活動内容について話し合う場に変えていきたいです。加えて、ホーム内で活動に関する相談がしやすい雰囲気を作るために、ミーティングで発言しやすい空気を作ることや、学生間の仲をより一層深めることを意識していきたいです。

活動地域より

Aホームさんと顔と名前が分かる関係が作れたのが一番でした。夏祭りでは子供たちとビンゴで楽しんだり、地域の方と踊ったりして、共に活動してきたからだと思います。名前では呼び合える関係をこれからも大切にしていきたいです。1年間ありがとうございました。

新潟市西区大学南 南心会 藤島 孝弘 様

担当教職員より

主体的にものごとを考え行動することがコミットメントであり、自分の人間的な成長に繋がります。ダブルホーム活動にコミットし、目の前のタスクに一所懸命に対処し、地域の方々と邂逅を楽しむことが、学生さんが社会で活躍する糧となることと信じております。

歯学部 大島 勇人

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 梅プロジェクト梅収穫・加工
- 7月 まちあるき
日本文理高校ワークショップ①
地域実習報告会
- 8月 大学南が丘夏祭り
- 9月 内野祭り
- 10月 新大ランド
- 11月 梅シロップの瓶詰め、試飲会
- 12月 日本文理高校ワークショップ②
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 卒業記念植樹
- 3月



8月5日 大学南が丘夏祭り



12月21日 日本文理高校ワークショップ



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 7人、
3年生 7人、4年生 4人、
教員 3人、職員 1人

活動地域： 新潟市西蒲区松野尾

関連団体： 松野尾地域コミュニティ
協議会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



12月9日 クリスマス会
紙皿を用いてクリスマスリース
づくりを行いました。



1月28日 豆まき会
段ボールで作った鬼めがけて
玉入れを行いました。

～松野尾との絆をつなぐ～

活動目的と概要

私たちは西蒲区松野尾で、主に子どもたち向けの事業の一部を企画・運営させていただいています。地域の方々の想いを汲み取りながら、また、学生のアイデアや企画にも賛同いただきながら活動に取り組み、地域と学生・教職員との絆をつなぐことを目的としています。今年度は夏休み学習会や運動会、クリスマス会、豆まき会の企画・運営をさせていただきました。活動の際には、企画から学年関係なく活発に意見交換を行い、運営もそれぞれが責任を持ちながら協力し、行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、「子どもたちとの交流の活性化」「子どもから全世代に活動の幅を広げる」「いろはだよりの復活」の3点を活動目標に掲げ、地域活動を行いました。

1点目に関しては、今年より夏休み学習会を復活させたことで、子どもたちの学習支援という新たな形での交流が増え、活動の幅が広まったと感じます。

2点目に関しては、昨年度まで子どもたちのみを対象として行っていたミニ運動会を、大人までを対象にした地域対抗運動会に変更したことで、松野尾地域の様々な年代の方々と関わることとなりました。

3点目に関しては、いろはだよりの復活は達成できませんでした。しかし、松野尾地域の子ども部会の皆様のご協力もあり、活動日の周知が進み、結果として参加児童数の増加につながりました。来年度は、コロナ明け2年目ということで余裕がでくると予想されるため、いろはだよりの復活も果たすことができると考えます。

【ホーム運営について】

今年度は、「交流会を行いホーム内で学年を超えた親睦を深める」「下級生が主体的に活動できる機会を確保する」「地域の方々との連携強化」の3点を活動目標に掲げ、ホーム運営を行いました。

1点目に関しては、年度初めの交流会は開催できなかったものの、年度終わりの交流会の計画を進めています。来年度は、年度初めに交流会を行うことで、活動参加の定着化のきっかけとなれればと考えます。

2点目に関しては、仕事の分担がうまくいかず、特定の学生の負担が大きくなってしまいう場面が多々あったと感じます。

3点目に関して、以前までは、地域の方とのやり取りはメッセージで行うことが多かったのですが、今年度は運動会企画の際に Zoom を用いて地域の方とミーティングを行いました。その結果、地域の方から意思の疎通がしやすくよかったというフィードバックをいただきました。来年度は、普段のミーティングから地域の方との連携を深めるべく、Zoom を活用したいと考えます。

活動を通して学んだこと

B ホームの活動を通して、松野尾の地域の方々の思いにふれました。私はこの1年間、様々な地域活動に参加して、コミセンの方々は地域のつながりをとても大切にしているのだと感じました。松野尾の皆さん、上級生、同級生、先生方、たくさんの方々に支えられ、B ホームでの活動を充実したものにすることができました。

伊藤 知夏（教育学部1年）

B ホームでは、“地域の方々との繋がりを大切に”活動を行っているのですが、イベントを重ねる毎に参加者の人数が増えていき、より沢山の笑顔を見ることができて本当に嬉しいです。またコロナ禍でずっと開催出来ていなかったイベントも、今年から再開することができ、本当に充実していました。

清水 美月（教育学部3年）

どうすれば子供たちが楽しんでくれるのか考えている時間も、実際に活動に行き子供たちと関わる時間も全てが楽しかったです。特に子供たちの笑顔を見るとこちらも元気をもらう事ができました。とても良い経験ができました。次の活動が待ち遠しいです。

谷川 魁（教育学部2年）

4年間のダブルホーム活動では、たくさんのことを学ばせていただきました。コロナ禍でのスタート、制限ありの活動、緩和されてからの活動と約4年、地域の皆さまにはご理解、ご協力をいただき、貴重な時間、経験ができました。ありがとうございました。

古井 ひかる（経済科学部4年）

今後に向けて

昨年12月に行ったシンポジウムでの振り返り等から、B ホームは現在、地域の方々と連絡を取る学生が固定化しており、それも影響してホームメンバー全員と地域の方々との交流の機会が少なくなっている点が課題として挙げられると感じます。それを受け来年度の地域活動では、新加入生を迎えた最初のまち歩きを例年の半日開催でなく、1日開催にする計画を立てています。地域の方々とお話をしながら昼食をとることで学生間だけでなく地域の方々とも交流を深め、学生の継続的な活動参加に繋がりたいと考えます。

また、今年度の活動目標に挙げていた「いろはだよりの復活」は来年度こそ実現させたいと考えます。季節の変わり目やイベントごとにその様子や成果を地域の回覧板などで共有することで、松野尾地域の方々にもっとB ホームの活動や想いを知っていただけるようにしていきたいです。また、こうした便りを作成することは、学生自身の活動の振り返りにも繋がると考えます。

来年度はコロナ明け2年目となります。活動をより発展させるためにも、地域との交流を大切にしていきたいと思います。

活動地域より

2023年はB ホームが松野尾に更に認知された年になりました。まち歩きから始まって年末迄の活動はあっという間に過ぎ、この1年は最も早くかつ充実した年になりました。何でも挑戦し何でも話してください！来期は更なる交流を目指して共に頑張りましょう！

松野尾地域コミュニティ協議会 堀 秀俊 様

担当教職員より

松野尾での活動には多くの子どもたちも参加してくれています。幅広い世代から協力を得られていることは学生の皆さんの大きな成果です。ホーム全員で協力しあって地域の方々にもっと喜んでもらえる活動を考えていきましょう。

教育基盤機構 吉田 章人

活動記録（2023年4月～2024年3月）

4月 大説明会

5月

6月 田舟乗船体験会

7月 まち歩き

地域実習報告会

8月 夏休み学習会

9月

10月 運動会

11月

12月 クリスマス会

ダブルホームシンポジウム

1月

2月 豆まき会

3月 卒業を祝う会（Zoom）



10月4日 運動会



8月19日 夏休み学習会



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 3人、
3年生 5人、4年生 1人、
教員 2人、職員 2人

活動地域： 柏崎市別俣地区

関連団体： 別俣未来推進部

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



シンポジウムの展示物

木造校舎の旧別俣小学校の魅力を伝えたい
と思い、ランドセルの展示や写真スポット
の作成をしました。



シンポジウムの展示物

1年を通してたくさんの行事が行われている
別俣を紹介する写真展を開催しました。

Come on! イベントで季節を感じる別俣

活動目的と概要

私たち C ホームは柏崎市別俣地区で活動しています。主に地域の行事に参加したりイベントのスタッフとして携わったりしています。今年度からできたホームであるため地域についてよく知ることを第一にまずは活動へ積極的に参加し学生や教職員で別俣地区をより活性化するために今後取り組んでいきたいことを話し合い実行できるように頑張っています。そのためミーティングに多くの人に参加しコミュニケーションをよくとりみんなで協力した活動体制の上で活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

地域の現状を知るためにまず、6月にホームのメンバー全員で地域散策に伺いました。そこでは地域の方々に別俣地域の特徴や、魅力、課題について説明していただきました。

そのことを踏まえて私たちはこの地域をよりよくしていくために何をしていくべきなのか話し合い、7月に行われた地域実習報告会で今後の具体的な活動方針についての発表を行いました。その後は川遊び、音楽祭、稲刈り、ノスタルジックツアー、コミセン祭り、収穫祭など、様々なイベントに参加させていただきました。

12月に行われたダブルホームシンポジウムでは、地域の方々の協力もあり素敵なブースを完成することが出来、多くの人に別俣地区の魅力を知ってもらうことができました。年明けにも味噌仕込みやスノーフェスティバルに参加させていただき、地域の方々との仲がより深まった1年になりました。来年度も様々な活動に参加させていただき、別俣地域の活性化に貢献していきたいです。

【ホーム運営について】

C ホームは1年目ということもあり、全員が新メンバーとして活動を進めていくことになりました。まずはホーム内の仲を深めることが目標となりましたが、ミーティングや別俣での地域活動を通して学年、学部、学生、教職員の枠を越えてコミュニケーションをとることができ、1年でホーム内の仲はとても深まりました。ミーティングや地域活動以外でも長期休みでホーム内でのレクリエーションを企画し、地域活動とは別で仲を深める機会をつくったことがよかったと思います。また、ホームを運営していくために、ホーム全員で役割分担をして、1人に負担がかからないようにしました。具体的にはホーム長、副ホーム長、予算担当、SNS/レクリエーション係、メール処理係、行程表/連絡係などの分担をしました。役割によっては負担が大きいものもあったので、来年度以降改善していきたいです。ホーム長がいなくても、代わりにリーダーとして指揮を執ることができる人が複数いたことで、ホームが停滞することなく活動を進められたと思います。

活動を通して学んだこと

別俣の行事は地域の魅力や地域の方の別俣に対する思いや未来の人たちへの思いを活かし協力し合って開催されていることを学びました。また感想や質問、提案を積極的に共有することが大切であることを学びました。今後はより C ホームと地域の方で話し合いを重ねていきたいです。

関 静香（法学部 1 年）

今年度から始まった C ホームですが、この 1 年間だけでも地域の方々とメンバー間の結びつきが強くなったと感じます。これによって積極的な話し合いが発生し、この中でどのようなことを実行できるのかをみんなで考え、話し合う力を学べたと感じます。

小檜山 涼雅（経済科学部 3 年）

始まったばかりの別俣での活動は、今は行事に参加しどんな事しているのかを知るのが主で、学生側が新規行事を企画するまでは至っていませんが、そんな私たちを地域の方々は温かく迎えてくれます。別俣での活動を通し、とにかく挑戦してみることに、物事を心から楽しむことの重要性を感じました。

西岡 寧々（農学部 2 年）

今年度の活動では地域についてたくさんを知ることが出来ました。地域自体のよさはもちろん、そこで暮らす方々の温かさにも触れることが出来、とても充実した時間を過ごすことができました。今後さらに良い関係が築けるようなホームになってくれたら嬉しいです。

小林 鈴果（経済科学部 4 年）

今後に向けて

私たちのホームは今年度からできたホームで、今年度は地域の方たちが企画したイベントのお手伝いやイベントに参加するのがメインでした。地域や地域の方たちのことを知ることで精一杯だったので、来年度からは自分たちでイベントを企画したり、SNS を使って地域の宣伝をしたりしていきたいと考えています。新入生が入ってきたらまずしたいことは、私たちの名前や顔写真や出身、趣味などが書かれた名簿を作成し、地域の人たちに名前を覚えて貰えるようにしたいです。また、私たちが特にチカラを入れていきたいのは SNS の運用です。中でも、若者や移住を促したい層が良く使用している Instagram に力を入れていきたいと思っています。具体的には投稿頻度を上げたり、活動の様子だけでなく地域の景色や日常の風景を投稿したり、ハッシュタグや写真の撮り方や文章を工夫したりなどです。また、柏崎関連のアカウントからレスポンスが来るくらいの SNS にしたいと考えています。そして、来年度は地域の方たちとの関わり、ホーム内のメンバーとの親睦を深めて、さらに別俣地区を盛り上げていけるように頑張っていきたいと思っています。

活動地域より

高齢化の進行に伴い、地域が何となく沈滞傾向にあったが、C ホームとの交流により、大きな刺激を受け、気づき→感動→行動(実践)と言った「新しい風」の展開を繰り返しています。

新年度は、お花の里づくりなどの提案を受け、協同で取り組んでみたい。

別俣地区 小暮 寛 様

担当教職員より

高齢化や過疎化。別俣もそうした課題を抱える地域ですが、別俣の取り組みには、そういう一般的な概念からはみ出たものがあります。がんばっているけれど、どこか遊んでいる。そんな魅力ある「学び場」で、精一杯「遊ぶ」一年でした。来年からは、やりたいことを少しずつ実現していくつもりです。

人文学部 園田浩司

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 田植え
- 6 月 別俣地区地域散策
- 7 月 地域実習報告会
川遊び
- 8 月 きらら星空音楽祭
- 9 月 稲刈り
- 10 月 ノスタルジックツアー
コミセン祭り
- 11 月
- 12 月 収穫祭
ダブルホームシンポジウム
- 1 月 味噌仕込み
- 2 月 スノーフェスティバル
柏崎冬のフェスティバル
- 3 月 語ろう！元気な「べつまた」



7 月 29 日 川遊び



1 月 27 日 味噌仕込み

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生8人、2年生5人、
3年生2人、4年生1人、
修士以上1人、教員3人、
職員1人

活動地域： 新発田市板山地区

関連団体： 夢づくり板山

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物**さんせっと活動紹介ポスター**

今年度のシンポジウムではさんせっとの活動を紹介するポスターを作成し、板山を表す数々の地域の写真とともに掲示しました

**郷土料理「やろまんま」**

板山地区の郷土料理である「やろまんま」を実際に作り、その様子をポスターにまとめてシンポジウムの際に公開しました。

板山の方との交流、そして魅力の発信**活動目的と概要**

D ホームの活動場所は新発田市板山地区で、ヒメサユリなどの豊かな自然や歴史があります。板山の方とホームメンバーの交流を促し、共に活動していくことを目的としています。板山の方と交流の機会を前年度よりも増やしました。活動の中で発見した魅力を SNS 等を用いてホーム外にも発信しています。板山の方が行っている活動のほかにも、学生が主体となり企画運営する行事を行います。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

ヒメサユリについての講習会を行いその花についての知識を増やすができ、固定行事以外を行えたのは良かったのですが、目標としていた情報発信が上手くできていなかったと感じています。1年生も実習報告会で SNS の活用を挙げていましたが、今年度末の活動の投稿のみとなってしまう、1年を通して投稿が出来なかったことは反省点だと思います。SNS 担当の役割を作り積極的な情報発信を心掛けたいです。ゆるキャラの作製に関してはイベントで投票を行い「うしおくん」というキャラを誕生させ、実習報告会・シンポジウム等で活用しステッカーの作製にも取り組んでいます。しかし、地域の方にはまだまだ知名度が低いので今後もさんせっと、板山のシンボルの1つとして成長させられるよう努力していきたいです。板山マップや自己紹介ポスターについては制作に至らず、特に後者が無いと多くの方に名前を覚えていただくことが出来ないと感じたため、来年度は新メンバーを含めより多くの方に自分たちの存在を知っていただけるように工夫したいと思っています。

【ホーム運営について】

今年度は「1. ヒメサユリの活動をホームメンバー全体で行う」「2. 学生が参加し続けたいような活動内容の考案・雰囲気づくり」をホーム運営の目標として掲げて活動してきました。1の目標についてですが、今年度は雨天のため例年参加している稲刈り体験が中止となり、代わりに開催されたヒメサユリ講習会への参加を通して多くのホームメンバーがヒメサユリについて理解を深めることができたと思います。2の目標についても、ベース活動だけでなく計画書に記載されたチャレンジ活動を全て実行することができ、地域イベントに積極的に参加する形で活動的な1年にすることができました。また、地域の方々を含めホーム全体がアットホームな雰囲気で、安心感あふれるホーム運営にすることができたと思います。しかし、主に地域のイベントに参加する形で学生から何かを地域に提案する機会が少なかったことが課題です。地域とお互いに支え合っていくなかで常に受け身ではなく、イベントの提案を行い地域の理解を得た上で実行するなど、能動的な活動への取り組みを来年度は検討していきたいと思っています。

活動を通して学んだこと

ダブルホームでは地域に訪れることの重要性について知ることができました。座学などの文面上でも地域課題を把握することはできますが、実際に現地を訪れると地域が抱える問題を五感で感じることで印象に残るので、これから加入する新入生にも伝えていきたいと思いました。

澤井 奎治（理学部2年）

私はダブルホームを通して、社会性を学びました。ホームに属して学部も学年も異なる新しい仲間ができ、自分の役割を認識して立ち回っていくことは難しくも楽しい経験でした。また、行ったことのない地域の方との交流は、学生にはとても貴重な機会だと思います。

鈴木 彩花（工学部2年）

今年度は対面での活動が増え、より深く地域と関わる事が出来ました。よりDホームを身近に感じていただくために、ゆるキャラづくりやお祭りの企画を行いました。子供たちと関わる機会も多くなったため、今後は活動を通して地域の方々により楽しんでいただけるようにしたいです。

中村 菜乃葉（人文学部3年）

この活動を通し、何度も同じホームの人たちとミーティングをしたり地域を訪れたりすることで、様々な考え方を持った人々との交流があったり、数あるホームの中から特に魅力を感じた地域の活性化にいかに関与するかを真剣に向き合ったりすることができています。

本澤 華菜（人文学部1年）

今後に向けて

地域実習報告会での3つのアイデアについて、1つ目の農業体験は、田植えが終わってしまっていたことと、稲刈りが中止になってしまったことで実施できなかったため、次年度の田植えまでに計画したいと考えています。また、悪天候などで中止になった際の代替案を準備しておくことも今年度の活動を通して必要だと感じました。2つ目の廃校舎を使ったスタンプラリーは次年度のキッズサマースクールで取り入れることを考えています。3つ目のSNSの活用は、今年度は年度末のみの投稿になってしまっていた反省から、SNSの担当者を決めるなどして年間を通してイベントの度に投稿し、積極的に情報発信していきたいです。ヒメサユリに関する活動は、今年度の講習会で知識を深められたことを活かして、来年度は種まきに参加したり、SNSで発信したりしてヒメサユリに関わる活動を増やしていきたいと思います。また、ホームのゆるキャラであるうしおくんのステッカーを作り、キッズサマースクールなどの行事で配るなどして、より多くの人にその存在を知っていただけるようにしたいです。また、多くの地域の方に私たちの顔と名前を覚えていただくことは、年に数回の活動では難しいところがあると感じたため、メンバーの自己紹介ポスターなどを作って、顔と名前をお互いに覚えられるように工夫していきたいと思います。

活動地域より

夢づくりいたやまのイベント参加協力、交流や食事会。特に雨の中でのホヤホヤは大変でしたね。たくさん、ありがとう。当地の花ヒメサユリ復活に向けて目標・計画ができたことも、とても嬉しく思います。新年度での再会を楽しみにしています。

板山地区 本間 喜一 様

担当教職員より

一個人のダブルホーム活動は数年ですが、ホームが存続する限り活動は続き地域の歴史として語り継がれます。皆さんの目標（努力）が実を結び成就するよう、同じ志を持ってDホームの仲間入りを果たす未来のメンバーのために一人一人の想いを記録に残し、人から人へ紡いでほしいと願います。

教務課 宇田 稔樹

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 たけのこ堀・夢まつり
- 6月 村歩き
- 7月 地域実習報告会
- 8月 キッズサマースクール
- 9月
- 10月 ヒメサユリ講習会
- 11月 収穫祭
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 ほやほや
- 2月
- 3月 卒業式



5月21日 夢まつり

企画したさかなつりゲームなどを通して子供たちと交流し、ゆるキャラの投票も行いました



1月21日 ほやほや

伝統行事に参加し、ご神体を作ったりスルメを焼いたりしました



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 8 人、2 年生 4 人、
3 年生 4 人、4 年生 8 人、
修士以上 2 人、教員 2 人、
職員 2 人

活動地域： 新潟市西区赤塚地区

関連団体： 佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



紙漕ぎ体験の出展

8 月 26 日に行われた佐潟まつりで、私達 E ホームは紙漕ぎ体験を出展し、多くの方にご好評いただきました。



シンポジウムブース

ダブルホームシンポジウムでは、1 年間の活動写真・ハスフラワー作り体験・ハーブの展示・白鳥の模型の展示を行いました。

活動目的と概要

E ホームが活動する新潟市西区赤塚地区は、白鳥やラムサール条約に指定されている湿地がある自然豊かな地域です。ここで私たちは、「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんをはじめとする地域の方々との交流や、佐潟の魅力発見を目的に活動しています。地域訪問では行事への参加、佐潟の自然保護のお手伝いをし、日々のミーティングではホームメンバー同士の交流や話し合いを通じて新たな活動を考え合ったりし、ホームの活性化に努めています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、「個々が考えていたやりたいことを明確化し、地域活動に盛り込んでいく」という点と、「地域訪問後に対面でも気づいたことや感じたことを伝え、佐潟についての新たな視点の獲得を目指す」という 2 点を目標として掲げ、活動に取り組みました。前者については 1 年生の加入後に既存のメンバーも含め、このホームを希望した理由ややりたいことの確認・提案を行いました。その結果、佐潟散歩マップの作成や地域の環境問題に着目した、ハスの復活・外来種に関する活動など、意欲的な活動が提案されました。しかし企画立案のままで留まってしまう、実現させることが出来ませんでした。現在、活動の詳細を計画中なので、地域の方と連携を図り、年度末から新年度の初めまでには実行したいと考えております。

また、後者の目標に関しては、訪問後に対面での意見交換ができていませんでした。週一回のミーティングでは、次の活動の話し合いがメインとなってしまう、振り返りについて中々話題として取り上げることが少なかった為、今後は活動の振り返りも積極的に行い、メンバー間の生の声で意見交換し、より良い活動に繋げていきたいです。

【ホーム運営について】

今年度のホームの組織運営については、「ホームミーティングに関して地域活動についてだけではなく、交流の場としての活用の仕方を継続する」については納得のいく結果となったと思います。ミーティング前後に談笑する時間を設けたり、レクリエーションを行ったりし、意見を言いやすい雰囲気づくり・学年を問わず仲を深められるようにすることができたのではないかと思います。今後もホームの雰囲気づくりを大切に、協力して活動することを通して、「E ホームに入って良かった」と思えるような運営を目指していきたいです。

一方で、活動報告の相互確認については、まだまだ課題が多く残っています。ミーティング報告や活動報告自体を忘れてしまうという問題も完璧には改善されていないため、活動後の口頭や LINE での喚起に加え、リマインドの設定を行うなどして予防に努めます。

活動を通して学んだこと

今年度から活動に参加しましたが、様々な場面でホームや地域の方から手助けをいただき、人の温かさを特に感じた1年でした。また世代や環境の異なる方との交流から、新たな知見が得られ、視野が広がることを学びました。今後とも周囲の方々と親睦を深めていけたらと思います。

佐々木 愛乃（経済科学部1年）

昨年度以上に様々な活動ができた1年でした。特に佐潟まつりでは、紙漉き体験を通して地域の子供たちの笑顔をたくさん見ることができ、貴重な経験となりました。地域の行事をたくさんの地域の方々と一緒に体験することで、より佐潟の魅力を知ることができました。

安孫子 瑠菜（人文学部2年）

今年度は感謝の思いを強く実感する1年でした。慣れないホーム長の立場で、活動やホームの運営について難しく感じる場面が多々ありました。しかし、その度にホームの皆をはじめ、地域の皆様、教職員の方々に沢山支えていただきました。今後はこの感謝を返せるよう邁進していきます。

久保 七晴（人文学部2年）

今年度学んだこととしては、幅広い年代と関わる重要性が挙げられます。普段の活動では自分たちより高齢な方との関わりが多い中で、佐潟まつりでは子供たちと多く関わりました。そのため、地域の未来をより意識する機会になり、良い経験になったと考えています。

中村 隆人（人文学部3年）

今後に向けて

今年度は地域への訪問回数が増え、昨年度以上に精力的にダブルホーム活動に臨めたと感じています。本格開催となった佐潟まつりに、紙漉き体験を出展させていただく機会を通して、積極的に行動することやホームメンバーと協力して物事を行うことの大切さ・楽しさを学びました。また、様々な年代の方と関わるができ、佐潟の新たな一面や考えに触れ、よい刺激をいただけました。佐潟まつりを経験して感じたこと・得たものを今後の活動へと活かしていきたいです。

一方で、Eホームの課題として「地域の方から提示される活動への参加は多いが、自分たちが主体となって行う活動は少ない」というものが浮かび上がってきました。今一度、ホーム内で新たにやってみたいことを話し合い、共有し、活動の幅を広げていきたいです。そのための第一歩として、佐潟散歩マップの作成とハスの栽培の計画を実現させたいと考えています。地域訪問や毎週のミーティング、ダブルホーム全体のイベントを行う中で培われた、ホームの仲を大切にし、より良いダブルホーム活動に努めていきたいと考えています。

活動地域より

新潟市がラムサール条約の湿地自治体に認証されたことを契機にあらためて湿地環境の大切さを学生の皆さんと学んだ1年間でした。佐潟まつりをはじめ潟普請、衰退したハス復活プロジェクトにも取り組みました。胴長を身に着けて寒風の下でのレンコン掘りは思い出に残ることでしょう。今後も社会、地域での活躍を期待します。

佐潟と歩む赤塚の会（新潟市西区） 涌井 晴之 様

担当教職員より

今年度は本当に活発な1年間だったと思います。試しに地域訪問活動の回数を数えてみましたが、何と昨年度の倍以上となっていました。回数だけでなく、ついに本格復活した佐潟まつりに出展するなど、内容も非常に濃密です。来年度も、より一層の情熱と結束で突っ走ってください。

留学交流推進課 西 洋平

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会・中原邸見学
- 5月
- 6月
- 7月 地域実習報告会・新加入生地域初訪問・灯籠作り
- 8月 佐潟まつり
- 9月 潟普請
- 10月
- 11月 ハスフラワー作り・ハーブ園訪問・ハス根掘り
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 白鳥観察・ハス復活プロジェクト報告会
- 3月 春の潟普請



7月28日 灯籠作り



2月3日 白鳥観察会



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 4人、
3年生 3人、4年生 4人、
教員 2人、職員 2人

活動地域： 山形県小国町玉川
・樽口地区

関連団体： 小国町振興会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



文化の日 小国町役場での感謝状授与

小国町における、F ホームの長年の活動、地域住民との継続的関係構築、特産品 PR などが地域資源の再評価と新しい地域づくり活動のモデルを提示したとして、小国町から感謝状が送られました。



シンポジウム縮尺 3 万 5000 分の 1 の小国町ジオラマ

段ボールやペンキなどを用いて、小国町の地形をジオラマにしました。よく見ると、川や山、公共交通機関や施設などの表示やジオラマ作製秘話が見られます。

活動目的と概要

我々F ホームは山形県小国町玉川・樽口地区で主に活動を行っています。地域散策や雪掘りなどの活動を始めとし、今年度は新大祭での物品販売や学生発表交流会への参加、感謝状授与、他ホームを招いた地域活動など多岐に渡り活動を行いました。地域を知ることのみならず、その魅力を外部へと PR する活動も行い、メンバー同士で協力してアイデアを集めながら「楽しく」をモットーに活動しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は「地域の方との交流や連絡を大切にしつつ、F ホームの活動地域だからこそできることを考え、実行に移していく」という目標で地域活動、地域の方との連携に努めました。連絡に関して、ミーティングでホーム内の方向性が決定した後、連絡係を通して活動日と内容を早い段階から決め、こまめな連絡ができました。地域活動でも、コロナによる制限のない懇親会やグランドゴルフ、また今年度は空き家利用やしめ縄づくりなどにて地域の方と深く交流する機会があり、充実した活動になりました。さらに、小国町特産品 PR を目的に地域のお店の方とも新たに繋がり、商品の詳細や背景は勿論、お店の方の商品や小国への熱意までも学べました。

F ホームの活動地域である小国町は、豊かな森林や動植物などの自然資源が印象的です。そのため、今年度はわらび採取およびイワナつかみ取り体験のプロジェクトや小国の木を用いた伝統工芸の木工体験プロジェクトを企画し、F ホームのみならず他ホームの方までも楽しんで、小国を体感していただきました。

【ホーム運営について】

今年度は「積極的に F ホームでの活動に関わりたいと思えるような楽しい活動をたくさん行っていく」という目標でホーム運営に努めました。1 年生が地域実習報告会で提示したアクションプランを基に、上級生が 3 つの大きな軸（自然資源、食資源、取り残された資源）に括り、実現性の高いものから実行して、達成感のある楽しい活動ができました。ミーティングではメンバーが相互に意見を言いやすい雰囲気づくりを徹底しました。その結果、意欲の大きさがホーム内で二極化し、固定されたメンバーが継続的に参加する形になったため、今後は、いかに柔軟に活動できるメンバーを増やすかが課題となります。

活動を通して学んだこと

地域訪問を行い、地域で暮らす方々と話す中で地域を大切に思う気持ちや考え方を多く知ることができました。地域実習報告会やシンポジウムを通して地域について知ったことを発表したことは地域への理解を深めるきっかけとなり、同じホームの学年を超えた絆もできました。

森 綾乃（医学部 1 年）

小国の地域性を活かして盛り上げようとしている方々の小国に対する強い想いを知ることが出来ました。小国での衣食住を楽しみつつ、それを外部へと発信してより良い町にしていこうとする姿に感動し、私も地域を守りたいという想いが地域活動の度に込み上げてきました。

柴田 姫佳（農学部 2 年）

小国町での活動を通してチームで活動する大切さと楽しさを学びました。チームで協力し、1 人では絶対に成し遂げられないことを成し遂げることが出来ました。来年度もホームメンバーと一緒に小国町について知り、たくさん発信していきたいです。

森下 乙夏（理学部 1 年）

今年度は数多くの新しい取り組みに挑戦しました。その過程において、取り組みを前に進めるための方法、地域とどのようにして連携を深めるか、活動を通じてメンバーにとって有意義かつ楽しいものとする事の重要性などについて幅広く学ぶことができました。

米山 智暁（工学部 3 年）

今後に向けて

今年度は、玉川・樽口地区での雪掘りやわらび園の援助などの地域活動に加えて、新しく小国町全体をフィールドにした外部への小国町 PR 活動や地域散策も行うことでより広く深く地域を学ぶ場面が増えました。また、他ホームのメンバーを招待した小国自然体験や伝統工芸体験のプロジェクト実施により、小国を知ってもらおうと共に他ホームとの関係を構築できました。

このように、新しい活動の始動が多かった一方で、考えるべきことが増え計画が直前になることが多くなりました。そして、多種多様な活動を行っているため、主軸となり継続している活動が特にないことが問題化しています。今年度のホームの変革状況がある程度落ち着いているので、F ホームメンバー全員で長期的かつ具体的な目標および計画を綿密に立てて、実行へと移していきたいと考えております。地域に寄り添い、恩返しとなり得る活動になるよう、来年度も精一杯努めていきたいと思ひます。

活動地域より

F ホームの皆さんには、年間を通して地域の様々な行事に協力して頂き、大変感謝しております。

活気ある玉川であるよう、この地域で何が出来るのか、意見を交わし合い皆さんの自由な発想で企画を取り入れて活動して頂ければと思っています。

山形県小国町玉川地区 渡辺 幸弘 様

担当教職員より

今年度の活動は目新しいものも多く、来年度のベース活動になりそうなものも増えましたね。皆さんの常に新しい事に挑戦しようとする姿勢にはただただ目を細めるばかりです。来年度の活動にも大きな期待を寄せています。引き続き頑張ってください。

財務部 堂角 颯

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 樽口わらび園
- 6 月 イワナつかみ体験
- 7 月 玉川地域散策・廃校見学、地域実習報告会
- 8 月
- 9 月 空き家宿泊
- 10 月 新大祭、しめ縄づくり
- 11 月 文化の日表彰式
- 12 月 木工館、ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月 雪掘り、柏崎冬のフェスティバル
- 3 月 地域との懇談会



10 月 22 日 新大祭での小国町の商品販売



12 月 2 日 木工館へ行くプロジェクト



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 4人、
3年生 4人、4年生 8人、
修士以上 1人、教員 3人、
職員 1人

活動地域： 阿賀町豊実地区
・日出谷地区

関連団体： わげしょの会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



笹の葉

次の年につくる笹団子を包むための笹の葉を採取しました。来年度はこの葉を使って笹団子を製作したいと考えています。



キャンドルのクリスマスツリー

今年のキャンドルナイトのテーマである「HAPPY」に基づき、幸せの象徴であるクリスマスツリーをキャンドルで表現し、豊実駅に展示しました。

活動目的と概要

わたしたち G ホームでは主に阿賀町豊実地区での活動を行っています。自然豊かかつ雄大な山々に囲まれた豊実は、たくさんの魅力の詰まった地域となっております。G ホームの活動理念として「笑顔を届けるホーム」というものがあります。これは G ホームで活動する学生、教職員だけでなく、そこに携わる様々な人たちが笑顔になれるよう活動をしていくことが目的となっています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

1. 名前呼び合えるような仲になれるように、積極的に交流することを心掛ける
2. 地域について調べるだけでなく、実際に地域の方のお話を聞いて理解を深める

1、2の両方の目標についてどちらも達成することができたと思います。G ホームの学生、教職員には名札を制作し、地域訪問の際に付けていくことで名前を呼んでもらえるように工夫することができました。また、地域訪問で地域の方と交流する際に、お話しする時間を予定に組み込むことで、G ホームのメンバーと地域の方々がたくさん話し合うことができ、名前を呼びあえるようになったとともに、阿賀町についてもより深く知ることができました。

今年度の活動は地域の方々と仲良くなることを目標に活動を進めてきた背景があり、その目標についてはあらかじめ達成できたといっても過言ではないと感じています。来年度の活動もまず地域の方々との関係性を築いていくところから始まり、学生主体のイベントを地域の方と協力して行うことを目標に活動を進めていきたいと思っています。

【ホーム運営について】

1. 新入生が入りたい・続けたいと思えるような環境を作る
2. 報告・連絡・相談をさらに活発にする
3. 目標を具体的に提示し、それに沿って行動できるようにする
4. 何事にも取り掛かりを早くする

すべての目標についてできたところとできなかったところがあります。目標を具体的に提示することや、取り掛かりを素早くすることは、ホーム長である自分がもっとしっかりしていればと思うところがあります。ただホームの運営はホーム長一人で行うものではなく、みんなで進めていくものだと考えているので分担できる場所を見つけ、なるべくメンバー全員が何か仕事を任される環境を作ることが必要だと感じました。

活動を通して学んだこと

G ホームでのダブルホーム活動を通して、阿賀町の魅力、豊実の良さを知ることができたと思います。また、地域を盛り上げたいというわけしょの会の皆さんの熱い想いや、ホームの先輩方が思う地域活動の意義など、自分だけでは想像の至らなかったことを沢山学ぶことができました。

初山 愛夢実（農学部1年）

今年はわけしょの会の方と一緒に活動する機会が多かったです。対面での対話しながらの活動によって、お互いのことを知って信頼を深められるということを学びました。今後このような活動の中でこそ生まれるアイデアや経験を大切にしていきたいと思います。

茂野 凜花（教育学部3年）

今年度はG ホームのホーム長として活動し、日々のミーティングや地域活動の企画など様々な経験を得ることができました。リーダーとしての役割や今後何をしていくべきかなど、ダブルホームを通してたくさん学ぶことができたと思います。本当に周りの仲間に支えられたそんな1年だったなと思います。

清水 陽大（経済科学部2年）

今年度はたくさんのイベントを開催することができたと思います。その中で地域の新たな魅力を発見し、わけしょの会の方々とより深い交流をすることができました。後輩の皆さんの積極的に活動する姿勢に、私もよい刺激を受けました。

杉本 稜一郎（創生学部4年）

今後に向けて

今後の活動に向けて、我々G ホームでは地域とのつながりを重視した活動を目指していきたいと考えています。今年度の活動では昨年度よりたくさん阿賀町に訪れることができました。これにより、G ホームに参加する学生一人一人が阿賀町とはどんな地域でそこに住む人々の思いはどのようなものがあるのかなど、より深く知ることができたと思います。地域訪問で得た知見を日々のミーティングで話し合い、今後どうしていきたいかを議論し実践する。この流れを循環していくことが日々の活動において理想の形だと考えています。

しかし、G ホームとして時に活動に行き詰まり、今後どうしていけばよいかなど壁にぶつかることがあると思います。そんな時は無理に何かを進めようとせず、ゆっくり時間を使って悩むのもいいし、その悩みを地域の人と共有することも大事だと思います。焦らずゆっくり、かつみんなが楽しく活動する。そんなホームを目指して今後も活動していきたいと思います。

活動地域より

コロナ対策が緩和されいろいろな交流ができた楽しい一年でした。豊実だけでなく、AGA ウルトラマラソンの慰労会で新潟でも交流することができましたね。

これからも前例にこだわらずに楽しく活動しましょう。

阿賀町豊実地区 佐藤 高博 様

担当教職員より

地域との行き来がしやすくなりました。改めて感じるのは阿賀町の自然は偉大でいつも癒されます。活動を通じて四季を実感できます。しっかり計画と準備をして完成度の高いイベントを目指すところに、G ホームの本気を感じます。定例の活動と新しいチャレンジと、これから地域への訪問回数が増えるといいですね。

工学部 飯島 淳彦

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 地域訪問
- 7月 阿賀町探索
地域実習報告会
- 8月
- 9月 阿賀ウルトラマラソン
- 10月
- 11月 キャンドルナイト
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



6月17日 地域訪問



11月12日 キャンドルナイト



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 4人、2年生 4人、
3年生 4人、4年生 4人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 新潟市西区内野町

関連団体： 内野まちづくり協議会、
内野まちづくりセンター、
西地区公民館

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



オープンキャンパス用のポスター



シンポジウムのイルミネーション飾り

活動目的と概要

H ホームの活動地域は、大学の近くである新潟市西区内野町です。「街歩き」をはじめ、「新川ほたる」や「新大ランド」など地域の方と共に活動させていただいています。私たちの活動目的は、「活動を通じて、内野とH ホームのことを知ってもらおう」です。地域の方との活動を通して、地域の方や大学生に内野地域の魅力を再発見していただけるよう活動しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちは活動地域に対して、今年度、「内野の皆さんとたくさん関わる」ということを目標に活動を行ってきました。

6月のまち歩きでは、これまでお世話になっていた方の交代もきっかけとなり、形式などを見つめ直し、昨年とは異なる関わり合い方を意識した、新たなまち歩きを実施することができました。8月の内野まつりにはお手伝いとして、11月の新川音楽祭には運営の段階から、複数のイベントへ参加しました。さらに、定期ミーティングにより、お話をさせていただく機会を増やすこともできました。地域団体だけでなく、商店街の皆さんとも関わったことも良かったです。しかし、それらの関わりが一部の学生であったことが課題だと感じているので、来年度は、ホーム全体で内野の皆さんと関わることを目標にしたいです。

【ホーム運営について】

今年度の地域活動の目標は、「来年度以降に実施したい大きなイベントの準備期間として、できる限りの努力をする」を掲げました。「内野の皆さんとたくさん関わる」ようにしたのもその手段の1つで、以前と比べてより意見を言い合える関係性になりました。しかし、意見がすれ違ってしまいうときもあるので、より良い話し合いをできる関係性を築くことを来年度の目標としたいです。

ホーム内の運営に関しては、①参加しやすいミーティング作り、②かしこまった場以外での交流、の2つを掲げました。①については、日程調整をチームごとに曜日固定にし、対面とオンラインのハイブリッド形式にし、複数の仕事の役割分担を心掛けたことで、より参加しやすいものになりました。②についても、コロナ禍の制限もなくなったことが後押しとなり、食事会の開催や、地域の飲食店訪問なども達成できました。一方で、ミーティングの出席率がまだ低いことが課題なので、来年度はより出席率を高めていきたいです。

今、H ホームは新しいイベントづくりなどを自由にできる状態にあります。内野の皆さんともホーム内でも深められた関係性を大切に、来年度も楽しみながら挑戦していきたいです。

活動を通して学んだこと

1 年生でも、イベント内でのブースリーダーを任せてもらい、自ら考え、責任を持って行動する力を身につけました。またホームメンバーや地域の方と協力して活動することで、他人の意見を知り、自分の考えを深めることが出来ました。

吉村 美紅(創生学部 1 年)

去年とは違いイベントのリーダーとして、責任感を持った活動を行うことができました。また、H ホームの活動自体の広がりを感じることでできた 1 年でした。来年はホーム長のサポートと後輩の育成に力を入れていきたいです。

安川 史也(法学部 2 年)

企画・運営する私たち学生はもちろん、公民館の方々、教職員、何より参加してくれた子どもたちや保護者の存在があった地域活動であることを改めて実感することができました。活動を通じて何をいつまでに準備しなければいけないか、予算の設定など綿密な計画、そして進行に合わせて計画を調整することが重要であると学びました。

押木 理沙(経済科学部 3 年)

対面での活動が増えた中で、私たちと地域の方の思いの両方を共有していくことの大切さを学びました。私たちにも情熱があり、地域に住まわれている方にも、地域にかける熱い思いがありました。オンラインではわからなかった「熱量」を互いにぶつけ合うことで、濃い活動ができたと思います。

山田 裕貴(法学部 4 年)

今後に向けて

今年度は、新たな H ホームへの第 1 歩を踏み出せたと感じています。複数のイベントで、これまでからの変化を恐れずにリニューアルすることができたからです。特に、新大ランドでは、例年の 12 月開催、クリスマステーマを、思い切って 10 月開催、ハロウィンテーマに変えた結果、大成功といえるほど子どもたちもとても喜んでくれました。初めての挑戦に不安でいっぱいでしたが、学生同士で助け合い、乗り越えられたことは大きな自信になりました。

一方で、地域の方と本格的に話し合う難しさも感じました。イベントの実施のためには、これまで以上に細かな打ち合わせが必要ですが、経済的な面でのすれ違いを難しく感じています。でも、どちらも成功させたい思いは同じはずなので、解決策は必ずあるはずです。なので、来年度は、教職員の方の力もお借りしながら、より良い話し合いができるようにしていきたいです。

活動地域より

「まち歩き」から「新川音楽祭」まで協働で活動し、ありがとうございました。今後は、「新川ほたる」を 4 年ぶりの再開に向けて、準備中です。H ホームの学生にとって、誰も経験がなく、0 からのスタートとなります。新川は、今から 204 年まえ、人の手で開削され、この川にほたるに見立てた光のページェントを再び、皆で楽しめる時間を演出したいと思います。

内野・五十嵐まちづくり協議会まちづくり部 山中 清蔵 様

担当教職員より

今年度の活動は、通常の活動に加え、新たに新川音楽祭へのお手伝いという形での参加も経験しました。新川音楽祭では、地域の方や子供たちの本格的な演奏等を聞くことができ、より内野に愛着がわく有意義な経験となりました。今後もこのようなことに積極的に挑戦してってください。

保健学科学務係 渡邊 直秀

活動記録 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

4 月	大説明会
5 月	ミーティング見学
6 月	内野まち歩き
7 月	
8 月	内野まつり
9 月	
10 月	新大ランド(A ホーム合同) 新大祭
11 月	新川音楽祭
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	食事会、報告書作成
3 月	



11 月 11 日 新川音楽祭



2 月 19 日 食事会



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 9 人、2 年生 3 人、
3 年生 5 人、4 年生 1 人、
修士以上 1 人、教職員 4 人

活動地域： 長岡市栃尾地区

関連団体： 栃尾商工会
栃尾観光協会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



トチオノアカリ

地域の方々と協力して、多くのアカリを設置しました。



遊雪まつり「そりレース」

栃尾観光協会さん協力のもと、遊雪まつりにて子供たちに向けて「そりレース」を開催しました。

栃尾に ZOOM あい

活動目的と概要

長岡市栃尾地区は上杉謙信ゆかりの地として知られ、雁木の町並みが残る歴史ある地域です。若者の減少が問題とされる栃尾地区で、魅力を発見して発信すること、栃尾の方々に栃尾のことをよく知ってもらうことを目的として活動していきます。これまで、I ホームでは栃尾で行われる様々なイベントに参加し、地域を盛り上げのお手伝いをしてきたため、今年度も積極的にイベントに参加し、それぞれの活動で明確な目的をもって活動していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は地域活動について、以下の活動目標を掲げました。

- ・定期的に栃尾を訪問し、栃尾の雰囲気を感じるとともに、地域の方々と積極的なコミュニケーションを図る。発見した魅力は X などの SNS を活用し発信する。
- ・積極的に質問し、地域の方々とお話をし、栃尾について詳しく知る。企画を自分たちで考える際は、地域の方とこまめに連絡を取り、地域に合った企画を考える。

昨年度に引き続き、とちお祭りや遊雪まつりなどの各イベントに参加、お手伝いをすることができ、定期的な栃尾への訪問、栃尾の雰囲気を感じて達成することができた実感しています。さらに、今年度は 1 泊 2 日でのとちお祭りへの参加や、トチオノアカリへの参加など新たな試みに挑戦したこともあり、地域の方々と積極的なコミュニケーションを図ることができました。しかし、SNS を活用した発信があまりなされなかったように感じます。また、地域の方々とお話をする機会は多かったのですが、それを踏まえて地域に合った企画を一から考えることはできませんでした。

【ホーム運営について】

今年度はホーム運営について、以下の活動目標を掲げました。

- ・ミーティング時にいろいろな人から発言をもらったり、役割分担をして計画を立てたりするなど、限られた人に仕事が集中しないようにし、多くの人が参加しやすい雰囲気を作る。
- ・各活動の計画時に目的を共有して、意識して活動するようにする。

ミーティングでは多くの人に意見をもらいつつ、活動ごとに役割分担をして限られた人に仕事が集中しないようにすることができました。しかし、徐々にミーティングの参加メンバーが固定化し、少数に仕事が集中することもあり、参加しやすい雰囲気を作ることができたとはいええないように感じます。各活動の目的の共有については、昨年度の反省を活かし、活動計画の説明とともに目的を共有するよう意識づけ、実行することができました。しかし、より具体的な目標を作り、活動するべきだったようにも感じます。

活動を通して学んだこと

地域課題の解決を図るべく行う活動は、その地域に住む方々との対話や議論、交流を大切にすることこそ意味があり、何気ない日常に垣間見える地域の方の本音に少しでも耳を傾けることが住民の方の望む地域の活性化への第一歩ではないかと学びました。

長澤 広瀬（法学部1年）

活動の中心となる立場になり地域での活動は地域の方の大きな支えがあって実現しているのだと気が付きました。そして、地域の方との関係づくりには受け身にならず自分から行動することが大切だと思いました。

畠山 薫帆（人文学部2年）

今年度は、他のホームとお話する機会が増えたように感じました。他のホームとの交流で受けた刺激と栃尾での活動から、これまでとは違う視点で栃尾のことについて考える機会も増え、新たな栃尾を知ることができました。

米澤 里穂（法学部3年）

4年間に渡って祭りや伝統工芸、スポーツ、食といった多様な視角から栃尾に深く携わる経験ができたことで、地域の持つ重層性を学びました。訪問のたびに栃尾の新たな一面に出会えた喜びは忘れられません。

田中 文也（人文学部4年）

今後に向けて

今年度は昨年度よりも栃尾へ訪れる回数が増えただけでなく、1泊2日でのとちお祭りへの参加や、トチオノアカリへの参加など新たな試みをすることで、とても濃い活動となり、地域の方々とより親密に交流できた1年となりました。来年度は、従来の活動とともに新たな活動にも取り組めるよう努め、地域の方々と交流して発見した栃尾の魅力はSNSを活用してしっかりと発信するように心がけていきたいです。また、ユニホッケーを用いて、他ホームとの交流もしていきたいです。

ホーム運営については、最初こそ多くの方がミーティングに参加し、明確な役割分担が行われ、個人に負担がかからないようになっていきましたが、時間が経つにつれ、ミーティング参加者が固定化され、個人の負担が増えるようになりました。シンポジウムにおいて、ホーム内の活動以外での交流が少なく、食事会などを開くと仲がより深まるという意見がありました。この意見を参考に、活動以外での交流も取り込みながら、皆が参加したいと思うようなホーム運営にしていきたいです。

活動地域より

日頃より地域を学び、地域住民と交流を図っていただき、ありがとうございます。本年度は、新たな団体と関わりあいホームの名が栃尾地域に浸透したと感じます。次年度は更に連携を密にし、地域のみならずダブルホームにも影響がでるように、行動を起こしましょう。

栃尾商工会 松生 健太 様

担当教職員より

コロナ禍の制限も緩和され、充実した活動ができたとともに、課題も見つかった1年だったと思います。来年度は地域の方、そして学生一人ひとりの思いを大切にしながら、より充実した活動を目指してください。

総務部総務課 櫻井 洋資

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 栃尾散策
- 6月 新加入生初回訪問、地域散策
- 7月 地域実習報告会
- 8月 とちお祭り
- 9月 トチオノアカリ
- 10月
- 11月
- 12月 ユニホッケー体験会、
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 遊雪まつり
- 3月 保育園訪問



8月27日 とちお祭り「武者行列」



12月10日 ユニホッケー体験会



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 10 人、2 年生 3 人、
3 年生 5 人、4 年生 3 人、
教員 1 人、職員 2 人

活動地域： 加茂市

関連団体： 加茂市役所
ぷらかも♪

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



カモフリマでの縁日ブース

メルカリ×加茂市のイベントにて作成



シンポジウムでの竹灯とランタン

ホーム展示で加茂の伝統的なお祭りを再現

活動目的と概要

私たち K ホームは新潟県加茂市で活動を行っています。加茂市は「北越の小京都」であり、豊かで美しい自然と駅から続く商店街などの暮らしやすさが融合した魅力溢れる地域です。また、地域の方々同士の結びつきが強く地元愛に溢れています。そんな加茂市で私たちは地域のイベントに参加するだけではなく、「大学生の私たちにしかできないこと」を常に考えながら K ホーム独自の多様なイベントを企画・実施し、地域の魅力を伝える広報活動にも力を入れています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、①SNS での情報発信や大学生ならではの経験を活かした企画、②親子世代だけではなく高齢の方を含めた幅広い交流でした。

実際に、今年度は SNS チームが主体となり積極的に Instagram での発信に取り組むことができました。K ホーム公式 Instagram では計 24 件の投稿がありますが、その内の 16 件が今年度の投稿です。また 10 月には「新潟大学行ってみたいカモツアー」と称した中学生向けのオープンキャンパスを実施しました。企画から実行まで全てが初めての試みでしたが、参加された中学生や保護者の方々からは、また参加したい、楽しかったなど嬉しい感想を沢山いただくことができ K ホームの活動に弾みがつきました。

今年度の活動の課題は、高齢の方との交流を広げることでした。様々なイベントに参加しましたが、やはり親子世代との交流が中心となり年齢層を広げるという目標は未達成だと感じます。しかし、様々な活動にご協力頂き少しずつ地域の方との交流が深まり、来年度の活動について前向きに話し合うことができました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営の目標は、先輩と後輩の垣根を壊し誰でも意見を述べられる信頼関係作り、ミーティングや活動に気軽に参加できる雰囲気作り、K ホームという枠組みだけではなく学生同士の関係性で交流できる柔軟な意識付けをすることでした。今年度の活動では、様々な場面において一年生が柔軟なアイデアを出し K ホームの活動をより豊かにしてくれました。ミーティングでも「～したい」という発言が多く、メンバーそれぞれが楽しさを見出して活動していたと思います。また今年度は活動を通じ協力し合うことで交流が深まり、メンバー同士のコミュニケーションが活発でした。楽しい雰囲気を保ちつつ話し合いでは真剣に一人一人が発言し、お互いの信頼関係が形成されていたと感じました。

来年度は SNS チームや個人に仕事の分量が偏らないよう、コミュニケーションを怠らず仕事の割り振りや活動量に留意し、居心地の良い空間をみんなで作っていきたいと考えています。

活動を通して学んだこと

私はダブルホームに参加して、楽しみながら活動することが重要だと学びました。加茂市で行われたフリーマーケットの縁日では、準備から当日まで本当に楽しく、地域の方々も喜んでいました。楽しいと思えることを学生が進んですることで、非常に活発な活動ができると学びました。

小林 陽平（教育学部1年）

活動を通して、イベントを実行するには多くの人の協力が必要だということを実感しました。私ができないことは他のメンバーが支えくれ、学生ができないことは先生方と地域の方が協力してくれました。メンバー全員と協力しアイデアを形にできた一年間で、大きな充実感を感じました。

今井 心愛（創生学部2年）

私がダブルホームの活動を通して学んだことは地域の行事に参加しお手伝いをする事でそれまでその土地で生活してきた地域の方々のお話を実際に聞き、生の声で知ることができることが貴重な経験だということです。これからも地域の方とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

山根 美和（医学部1年）

今年度は昨年度よりも対面での活動を多く出来ました。限られた時間のなかで様々なことをやらなくてはならない時期もありましたが、活動に関わる学生や教職員の方、地域の方と力を合わせて準備したり活動したりすることの重要性やありがたみを改めて感じる事が出来ました。

渡邊 光砂（人文学部3年）

今後に向けて

昨年度までは、加茂の伝統的なお祭りをメインに活動を行っていました。しかし今年度はそのお祭りが開催されず、今後も活動のメインや新入生へのアピール内容を変えていく必要があります。そのため来年度は、メンバーの「やってみたい」という意見やアイデアを柔軟に取り入れ実行し、活動の軸を築くことが重要だと思っています。そして、新しい企画に挑戦すると同時に、今年度から取り組んだオープンキャンパスなどの企画を改善しながら継続していくことに力を入れたいです。

また、Kホームの大きな魅力はメンバー同士の仲の良さや和やかさと、活動に取り組む積極性のメリハリある雰囲気です。その雰囲気を失わず、一人一人が参加して良かったと思えるようにメンバーを大切に活動していきたいです。一方、地域の方からはコロナ禍を経て学生との交流が疎遠になったという声がありました。ホーム内だけではなく地域の人に寄り添い、信頼関係を築いて協力し合える活動を心掛けたいです。

活動地域より

今年もチャレンジングな一年でした。子供たちの笑顔あふれた「かもフリマ縁日」や、中学生を招待した「新潟大学行ってみたいカモツアー」。また小学生と取り組んだ「さいのかみ」など、「笑顔あふれるまち加茂」を実践してくれました。来年も加茂にかも〜ん♪一緒に楽しみましょう。

株式会社堀内組 堀内 大祐 様

担当教職員より

いうまでもなく、ダブルホームは学生の自主性、主体性を前提としています。それだけに、学生それぞれの想いが実現できる場を目指すことが大切です。皆さん、Kホームに求めるものはなんですか？どんなKホームにしたいですか？遠慮なく出し合い、ホームの価値を皆で創っていきましょう。

教育基盤機構 樋口 健

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 加茂祭り
- 6月
- 7月 まち歩き、地域実習報告会
- 8月
- 9月
- 10月 カモフリマ、新潟大学行ってみたいカモツアー
- 11月
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 塞の神
- 3月



10月28日新潟大学行ってみたいカモツアー



2月4日さいのかみ

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生7人、2年生7人、
3年生5人、4年生2人、
教員3人、職員1人

活動地域： 新潟市西区坂井輪中学校区

関連団体： 坂井輪中学校まちづくり
協議会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物

子ども食堂での工作



冬の子ども食堂で遊んだ福笑い

お正月が近いということで日本の伝統的な正月遊びである福笑いを子どもたちとした

活動目的と概要

私たちLホームの活動目的は「学生と地域の方のつながりを作り、広げていく」です。子ども食堂では、工作などの遊びを通して子どもたちと交流しています。その他、坂井輪まつり、防災ワークショップなどに参加し、幅広い年代の方々と活動しています。Lホームの活動は、普段の大学の学びにはない、貴重な経験ができるだけでなく、地域の方々の温かさや情熱を日々感じ、自分自身の成長に繋げることができるため、魅力的です。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度は、①地域の方とのつながりをより強くし、良好な関係性を築くこと、②ホームメンバーから希望を聞き、地域の方と調整したうえで、何かしらの新しい活動を行うこと、という2つの目標のもと活動してきました。まず、①の目標に関しては、今年度はメインの活動となる子ども食堂以外にも、坂井輪祭りを始め、防災スキルアップ講習会、坂井輪音楽フェスタなど、地域の方からのお誘いで、坂井輪地域で行われるイベントにもLホーム学生として参加することができ、また、これらのイベントでの地域の方とのコミュニケーションや坂井輪中学校地区協議会の方との懇談会を通じてより良い関係性を築くことができたと思います。②の目標に関しては、私たちのメインの活動である子ども食堂のなかで、地域の方々の理解を得て、ホームメンバーの意見を活かしながら工作や筋トレなど、子どもたちが楽しめる遊びづくりを工夫できたことから概ね達成できたと思います。

【ホーム運営について】

今年度は、①ホームメンバーのみの活動をいくつか行う、②ミーティングの参加有無連絡、活動後の報告など、当たり前のことをしっかり行うという2つの目標のもと、活動してきました。①に関しては、ホームメンバーのみで坂井輪地域の町歩きを行いました。今後、よりホームメンバーでの活動機会を増やし、チーム内の絆を深めていくことが重要であると感じます。②に関しては、概ね達成できたと考えます。ホームリーダー中心にミーティングの連絡や、活動後の振り返りを行うよう呼びかけがあった他、メンバーもホーム活動終了後、すみやかに活動の振り返りを行っていました。

今後の課題は、Lホームの魅力をもっと知ってもらうために、インスタグラムやXなどのSNSを利用して活動の情報発信を行うことです。子ども食堂での活動の様子をメインに、多くの人に関心を持ってもらえるような投稿となるよう、メンバーで協力し合いながら取り組んでいきたいと思っています。

活動を通して学んだこと

ダブルホームの活動の中で、大きな仕事から小さな仕事までやらなきゃいけないことがたくさんあって、一人の人に任せたり一人の人の負担を大きくしたりするのではなく、みんなで分担していくことがとても大切だと感じました。

富井 和咲（教育学部 1 年）

私は、子ども食堂や地域活動への参加を通して、必要に応じたコミュニケーションの取り方を学びました。例えば、小・中学生には自由な発想を手助けするような言葉を選んで話しかけ、まちづくり協議会の方には自分の意図することが明確に伝わるように話すことを心掛けました。

上島 青空（教育学部 1 年）

一年間の活動を通して、活動をうまく運営していくには多くの人の支えが必要であるということを学びました。多くの地域の方の関わりにより子ども食堂の活動が運営されていたり、活動に私たち大学生を必要としてくださったりなど 地域の方のあたたかさを改めて感じました。

寺島 晴香（経済科学部 2 年）

私は一年間、副ホーム長を務めました。その中で学んだことは、全体をまとめることと、地域の方との話し合いを調整する難しさです。初めてのことでばかりで戸惑いもありましたが、なんとかやり遂げられたので、貴重な経験となり、学びとなりました。

川口 竜誠（経済科学部 3 年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いや振り返りを通して、学生から見た、L ホームや地域への思いを知るだけではなく、多くの方々とのかかわりの中でL ホームとして活動できていることを実感できました。シンポジウムでは、地域の方々と話し合う機会もあり、地域の方々の坂井輪地区への思いと学生のダブルホーム活動への姿勢には多少ずれも見受けられると感じました。今後は坂井輪の町歩きなどを積極的に行い、学生が坂井輪地域の魅力について考える時間を多く設ける他、地域の方々との連携をより強める必要があると考えます。L ホームの課題としては、地域の活動に参加させていただくことは多いものの、ホームの学生から活動の提案をすることができなかったことが挙げられますが、学生が意欲的に地域の方々にイベントを企画・提案することにより、地域との連携もより強固なものになると思います。

今後もL ホームは子ども食堂を中心に活動し、地域の思いと向き合い、地域活性化の一助となれるよう努力していきたいと思っています。新規企画もホームメンバーで考案していきたいと考えています。これからのL ホームもよろしくお願いいたします。

活動地域より

コロナ感染症の5類移行に伴い活動の幅が徐々に広がる中、子ども食堂はじめ防災食調理体験、坂井輪まつりなど、様々な地域イベントに参加いただき有難うございました。年度当初の活動目標に見合う成果は得られたのでしょうか。新年度はさらに一段上を目指し、より多くのメンバーと共に積極的かつ広範な活動が展開できることを期待します。

坂井輪中学校区まちづくり協議会 会長 梶原 宜教 様

担当教職員より

子ども食堂を中心に地域の皆様との交流が深まった1年だったと感じます。子どもや地域の皆様といった学生とは異なる世代の方々との交流を通して、多様な考え方や生き方を感じ取ってほしいと願っています。これからも楽しく活動するとともに地域から多くのことを学びましょう。

創生学部 澤邊 潤

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月
- 7 月 地域実習報告会
まちあるき地域実習報告会
子ども食堂（～8月）
- 8 月
- 9 月 坂井輪まつり
- 10 月
- 11 月 防災スキルアップ講習会
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
坂井輪音楽フェスタ
子ども食堂（～1月）
- 1 月
- 2 月 一年の振り返り＆スマホ教室
- 3 月 子ども食堂（～4月）



7月19日 まちあるき



12月23日 坂井輪音楽フェスタ



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 8 人、2 年生 6 人、
3 年生 4 人、4 年生 6 人、
修士以上 1 人、教員 2 人、
職員 2 人

活動地域： 新潟市中央区万代地区

関連団体： NST 新潟総合テレビ

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



N ホーム公式 Instagram



NST まつりで使用したスライド

活動目的と概要

新潟市中央区にある万代シテイを拠点に地域の魅力を発信するだけでなく、他ホームとの連携によるダブルホーム全体の情報発信をすることも目的としたホームです。

今年度は、NST 新潟総合テレビや NGT48 の方々、万代シテイの皆様をはじめ、新潟市中央区で活動なさっている方々と共にイベントへの参加を行いました。今後は SNS を活用して地域の魅力や他のホームの活動を紹介するなどの取り組みを行っていく予定です。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、①万代の魅力発信を N ホーム所属の学生自身ができるよう、SNS 発信の体制を整えること、②N ホームとして長期的・習慣的に万代地区と関わることができるようプロジェクトを考え、何か一つ実践すること、でした。一つ目の目標であった SNS 発信の体制を整えることに関して今年度から、N ホームの公式 Instagram を開設し、発信を始めました。しかし、せっかく作った体制を十分に活かしきれず、発信頻度が少ないという改善点がありました。来年度は、今年度整えた体制を活用し、更なる発信を積極的に行っていきます。二つ目の目標であった長期的・習慣的プロジェクトに関しては、今年度は良いプロジェクト案が出ず、来年度の活動目標として引き継がれることになりました。しかし、NST さんとはいくつも企画を協働し、良好な関係性を築くことが出来た年でもありました。NST まつりの際に、NGT48 さんと YouTube ライブに出演した経験は、N ホームメンバーにとって、大きな刺激となり、「Instagram、YouTube ショートを使った、万代・にいがた 2km の魅力発信企画を行いたい」という、目標設立へと繋がりました。

【ホーム運営について】

今年度は、①N ホームでの活動とそれぞれ他の活動を両立しながら、お互いに良い影響を与えあえる存在であるよう努力する、②それぞれが活動に参加しやすいようなグループ編成、役割を分担し、綿密なコミュニケーションを取りながら活動に取り組む、③万代でのフィールドワークを多く実施し、現地での学びや気づきを大切にする、という 3 つの目標を掲げていました。

シンポジウム準備やイベントにおいて、うまく仕事分担を振り分け、皆で取り組む意識を持つことができました。NST さんとは昨年に引き続き 9 月の NST まつりに参加させていただくなどの様々な形で関わらせていただきました。

しかし、万代地域でのフィールドワークの機会をあまり設けることができませんでした。今後は、私たち側からのアクションで NST さんと共に活動をしていき、N ホームとしての活動を増やしていきたいと思います。

活動を通して学んだこと

活動を通して、大学生以外の社会人の方、地域に暮らす方の想いや考えを知ることができました。また、多様な立場の人の思いを聞くことで地域への理解が深まり、自分の成長にも繋がると実感しました。今後はより積極的に学生視点での活動を考え、実行していきたいです。

峯田 彩羽（経済科学部 1 年）

N ホームの活動を通じて、「現場主義」の大切さを学びました。特に、NST さんとの万代シテイ 50 周年記念特番作成では、様々な人にお話を聞いて、意見をまとめました。今後の大学生活や、社会に出た際にも意識していきたいです。

吉川 さくら（経済科学部 3 年）

ダブルホームでは、活動地域のことを元々知っていた人、知らなかった人に関わらず、活動を通して自らの知見を広げることができ、それがいずれ大きな財産となる可能性を秘めていると思います。今後も地域との関わりを楽しみながら活動していきたいです。

遠山 颯土（経済科学部 2 年）

2 年生からダブルホームに所属し、これまでを振り返ると、答えのない問題に対してたくさん学ぶことができました。「ターゲットはどこに絞るか」や「どんな活用方法があるか」など、数多の視点から違った課題が見え、どう解決に結べるのかを考えられたのは貴重な経験です。

森山 啓（経済科学部 4 年）

今後に向けて

今年度の N ホームは、NST さんとのコラボ活動や街歩きなどにおいて多くの方々との関わり・縁を大切にできたと感じています。今後もこのご縁を繋げていけるよう、私たち側からの提案や働きかけを意識していきたいと思っています。

また、N ホームの SNS アカウントを作成しましたので、SNS を通じて万代地域のおすすめスポットやお店などの魅力を紹介したり、他のホームとのハブ的な役割を担うために SNS にてそれぞれのホームの特色や魅力を紹介したりしていきたいと考えています。現在、N ホームのアカウントは Instagram のアカウントのみ作成していますが、YouTube のアカウントを作成し、YouTube ショートを活用して Instagram と同様に魅力の発信を行っていききたいと考えています。

まだホームとしての歴史が他のホームと比べて浅い N ホームですが、模索しながらも様々なことにチャレンジしていきたいと考えています。今後は、N ホームの軸となるような活動を熟考したり、N ホームや万代地域の広報活動に力を入れたりしていきたいと考えています。

活動地域より

今年も番組にイベントなど様々な事にチャレンジ頂いた 1 年だったと思います。来年もコミュニケーションを重ねて、一緒に万代地区を盛り上げていきましょう！特にリアルでの活動を構築していければと思いますので、皆さんの関連なご意見もお待ちしております。

株式会社 NST 新潟総合テレビ 小林 一隆 様

担当教職員より

今年 7 月の万代街歩きでは、万代シテイの昔から今、萬代橋の面影を地域の方から教えていただきました。9 月のイベントでは、念願の NGT48 のみなさんとのコラボが実現しました。起点となる新潟駅も南北が繋がり未来の扉がまた一つ開きます。夢をかなえる N ホーム学生たちの活動が楽しみです。

工学部 菅原 晃

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月
- 7 月 街歩き
地域実習報告会
- 8 月
- 9 月 NST まつり
- 10 月
- 11 月 万代シテイ生誕 50 周年記念特番
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月 N ホーム新年会
- 2 月 「渦ちゅーぷ」出演
- 3 月



街歩き 7 月 1 日



NST まつり 9 月 23 日



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 5人、
3年生 5人、4年生 4人、
修士以上 4人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 村上市早稲田地区

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



かわら版

今年度も定期的にかわら版を発行しました。
活動を振り返る良い機会にもなっています。



わらほうき

ダブルホームシンポジウムにて昨年度のしめ縄リースを参考に来場者に実際に体験してもらったわらほうき作りをホーム展の1つとして出展しました。

活動目的と概要

Q ホームは、自然豊かな村上市早稲田地区を活動拠点に、早稲田地区で暮らす地域の方々の想いや、地域そのものへの理解を深めることを目的として活動しています。今年度は、三吉様参拝やお花見会などで、早稲田の雄大な自然を肌で感じ、しめ縄づくりや才の神などでは、地域の伝統やそこに暮らす人々の想いに触れることができました。来年度は、早稲田地区の魅力である「自然・人・伝統」が発揮されるような企画の立案・実行を目指します。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

昨年度は、①「地域行事への積極的な参加」②「地域の方々とのつながりを常に絶やさない工夫」③「チャレンジ企画の実行」という3つの活動目標を立て、Q ホームとして活動が続けました。まず、目標の①については、昨年度よりも地域行事への積極的な参加が見られ、ホーム全体としてとても勢いのある1年でした。次に、②の「地域の方々とのつながりを絶やさない工夫」については、かわら版の継続的な発行や、地域の方々と連絡を密にとることで、達成できたのではないかと考えています。③の「チャレンジ企画の実行」については、「収穫祭」という地域行事に加えて、「火起こし体験」を学生で提案し、地域の方々の協力もあり、無事実行することができました。普段、交流する機会の少ない、地域の子供たちと交流ができたメンバーの笑顔が印象的でした。8月中旬には、「早稲田クイズラリー」という企画の実行を考えていたのですが、実現できませんでした。今年度は、より早い段階から企画を話し合い、準備を十分にしておき、チャレンジ企画を実行したいと考えています。

【ホーム運営について】

ホーム運営について、今年度の目標は以下の3つです。

1 つ目は早稲田地区の研修センターに貼る Q ホームメンバーの自己紹介ポスターをつくることです。この目標について、実際にメンバーそれぞれの写真、簡単なプロフィールと共に作成し掲示していただきました。

2 つ目は月に 1 回程のペースでミーティング以外のホーム内で交流する機会を設けることです。ホーム全体で食事会の場を設け学部学年を超えて交流することができました。

3 つ目は各仕事内容に合わせた係を作り、Q ホーム全体での組織運営を目指すことです。シンポジウム等行事において、学年を超えてワークショップ班、展示班とで分担を行い、その中でも動画づくりやポスター作りなど細分化したことで全員が役割意識を持ち、作業することができました。しかし、普段のホーム運営において、ミーティングではこちらから投げかけた話題について話し合うといった流れになっているので、議題から全体で考えたり全員がより主体的に運営に参加できたりする方法を模索する必要があると感じました。

活動を通して学んだこと

私は地域の伝統文化が守られていく大切さを学びました。Q ホームの活動では、しめ縄づくりやオの神など、地域で長く行われているさまざまな活動に参加させていただきました。それぞれの行事には「いわれ」があり、その「いわれ」を大切に受け継ごうとする地域の方々の想いに感動しました。

岡 卓俊（創生学部 1 年）

今年度は共同代表になったことで 1 年生のときはまた異なった角度から地域の文化や歴史について考え、新たな魅力に気づくことができたと思います。来年度もより地域とのつながりを強いものにし、学生が主体となった企画を行えるよう計画していきたいです。

坂口 美優（人文学部 2 年）

活動の中では早稲田の方々の地域への思いを深く感じたとともに、メンバーの為になって動くことや準備の大切さなど、様々な学びを得ることが出来ました。ホーム長としてのこの 1 年間は自分にとって非常に色濃いものでした。地域の方々並びに Q ホームメンバーには感謝の気持ちで一杯です。

山岸 虹太（創生学部 3 年）

4 年間の活動でたくさんの学びを得ることが出来ましたが、この「出会い」が一番の財産であったと考えています。本気の大人による地域の探究活動を実践している地域の皆様、学部を超えた個性的な仲間たち、学生を力強い伴走で支えてくださった教職員、と、ステキな出会いをありがとうございました。

萩原 大貴（法学部 4 年）

今後に向けて

今年度もしめ縄づくりやオの神などの伝統行事に多く参加させていただくことができました。地域での活動以外にもかわら版の発行を通じて地域とのつながりを維持することに加え、Instagram、今年度からは X(旧 Twitter)も積極的に活用して情報、魅力発信を行いました。今年度は参加することはできませんでしたが、おせっかい隊の活動への参加や早稲田演劇五蓋の鬼の台本制作、また劇に関することなど様々な行事を通して地域と関わり、より関係を強めていければと考えています。地域での活動を通して、早稲田地域を知り、課題解決に向けて取り組んでいきたいです。

これまでの活動の課題点として挙げられるのは学生が主体となっていく企画が挙げられると思います。今年度はチャレンジ企画で収穫祭の際に火起こし体験を行うことができた反面、早稲田クイズラリーは実施まで至りませんでした。来年度は企画の段階で内容を細かく決めておき参加者の確保や地域での事前調査等、事前の準備をより綿密に行っておく必要があると考えました。

活動地域より

前々区長の俊機さんの運転手として、新大の門を初めてくぐったのが 15 年ほど前。その時のテーマが悪臭問題。そして今春、その解決を第一に掲げる、村上市議員に関心を持っている私。人生まだまだ分からない 73 才。

村上市早稲田地区 区長 富樫 光七 様

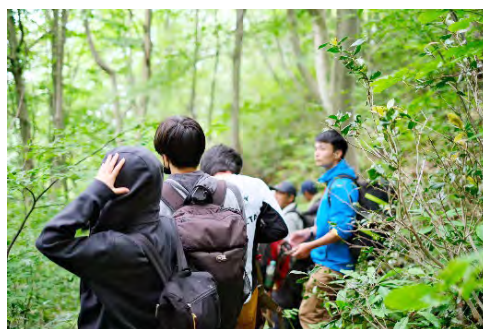
担当教職員より

今年度は、昨年度に増して地域活動が充実し、早稲田の様々な方々と交流できた年となったのではないのでしょうか。今後の活動についても学年を問わずいろいろな意見が出され、百家争鳴、頼もしい限りです。これからの Q ホームの行く末が楽しみです。さらなる発展を期待しています。

人文学部 飯島 康夫

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会、お花見
- 5 月
- 6 月 三吉様参拝
- 7 月 地域実習報告会、しめ縄づくり
- 8 月
- 9 月
- 10 月 敬老会、火起こし体験
- 11 月
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月 オの神
- 2 月
- 3 月 振り返り会



6 月 11 日 みよし様参拝



7 月 9 日 しめ縄づくり

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 4人、
3年生 3人、4年生 6人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 1人

活動地域： 阿賀町七名地区

関連団体： 阿賀町上川支所、阿賀町勝
手に応援団、七福荘、地域
おこし協力隊、とんぼの会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物

七福の里祭りで出店したクレープ屋台



屋台で提供したクレープ

活動目的と概要

私たち R ホームは、山に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は地域の方にそばをふるまいます。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度の長期的な目標は「より多くの地域の方とそば作りを通じて深い関わりを持ち、外部の人間としてではなく地域の一員として活動する」でした。今年は、上川地区で行われた七福の里祭りやそば祭りだけでなく、阿賀町の津川地区で行われた狐の嫁入り行列にも参加しました。上川地区のみならず阿賀町地域の一員として活動できたため、目標達成できたのではないかと考えます。また、具体的な目標として「地域に訪問する回数を増やし、地域の方と積極的に交流していきたい」というものがありました。これに関して、コロナウイルスにより昨年度は開催がなかった七福の里祭りに今年度は参加しました、蕎麦の種まきにも挑戦することができ、訪問回数、地域の方と交流する機会ともに増えました。しかし、今年度は天候などの影響もあり、蕎麦の収穫や蕎麦の唐箕掛けといった活動に参加することができませんでした。地域の石川さんも仰っていますが、来年度は蕎麦の種まきから唐箕掛けまでの一連のそば作りを通して、より七名地区と深く関わっていききたいと考えます。

【ホーム運営について】

今年度の目標は、大きく二つありました。まず一つ目は、「活動に対する意識を高め、より多くの学生が地域の活動に参加をする」でした。これは、学生間で活動の参加頻度に偏りが出てしまい、一部の学生に負担がかかってしまうことを改善するために立てた目標でした。この目標に関しては、対面でのミーティングに変更したことで、活動目的の確認ができ、学生同士の交流も深まったと感じます。しかし、まだ学生の間に参加頻度の偏りがあり、ホーム長・副ホーム長の負担が大きくなってしまったので、来年度も改善する必要があると考えます。

二つ目の目標は、「高学年から情報を継承し、ホーム運営をより充実させる」でした。これは、昨年度の反省を踏まえ設定したものです。今年度は、昨年度と異なり、対面でのミーティング開催が実現できたため、先輩・後輩の意思疎通も取りやすく、意見やアイデアを出しやすい環境であったと感じます。この良い雰囲気を来年度も作ることを意識したいと思います。

活動を通して学んだこと

一年を通じて様々な地域活動に参加し、現地の様子や地元の方々の地域に対する想いを知ることができました。報告会などの学内活動に取り組む中で高まったチームワークを発揮し、今後のRホームの活動をさらに実りあるものにしていきたいです。

畠山 佳歩（人文学部1年）

今年度もホームとしては多くの地域のイベントに参加してきました。どの活動も地域の方々と交流しながら各々学生の自主性などを養うことができる良い活動になったと思います。活動地域が遠く、頻繁に現地に行くことはできませんが、その分一回一回の活動を大切に来年度も活動したいです。

孫田 萌衣（人文学部2年）

今年は特にメンバー間で協力することの大切さを先輩方を見て学びました。地域に訪問して活動をするということがメインですが、そこに至るまでホームのメンバーで協力して準備を進めていくことが、私たち地域の方に対してできることなのだと改めて感じました。

今井 紗和子（経済科学部2年）

多様な人の視点からアイデアを出す大切さを学びました。自分一人では思いつかなかったような意見がホームの皆を頼ることで生まれたりするので、意見を出しやすい環境づくりは大切であると感じました。様々なアイデアを組み合わせることで、可能性の広がりを感じています。

田村 優衣（人文学部3年）

今後に向けて

今年度のシンポジウムも昨年と同様に対面で開催されました。普段活動する中で、他のホームと関わる機会が少ないため、他ホームがどのような活動を行っているのか知ることのできるとても有意義な機会となりました。しかしながら、参加する学生が少なかったため、来年度はより多くの学生に参加してもらえるように呼びかけ、一年の集大成とも言えるシンポジウムを盛り上げていきたいと考えます。

今年度、七福の里祭りや蕎麦の種まき活動といった昨年開催が無かった、また挑戦できなかった活動に参加することができ、地域の一員として活動を行うことができました。

来年度はさらに、蕎麦づくりの一連の活動を通して、地域に訪問する回数を増やすだけでなく、地域に対する理解や興味を深めていきたいと考えます。そのためにはまず、日ごろの対面ミーティングでお互いの交流を深め、どのような活動を行っていききたいかという意識を皆で確認し合い、高めていきたいと考えます。

活動地域より

依然としてコロナの警戒や天候の不具合などが続いて、蕎麦作りの目標である種まきから蕎麦打ちまでの一環活動がなかなか実現できませんが、今年こそ完結したいですね。七福の里が少しでも元気になるよう皆さんの更なる活動を期待しています。

阿賀町上川地区 石川 久作 様

担当教職員より

「誰かのため、地域のため」だけではなく、地域の方々や学生の皆さんの一人一人が楽しい！と思える活動こそが長続きする秘訣です。経験したことのない新しいことへの挑戦と地域の皆様との交流を通して、皆さん方それぞれの“自分軸”が見つかるといいですね。応援しています！

学術情報部 林田 宏三

活動記録（2023年4月～2024年3月）

4月 大説明会

5月

6月 七福の里祭り

7月 地域実習報告会

地域散策

8月 そばの種まき

9月

10月

11月 上川そば祭り

12月 ダブルホームシンポジウム

1月

2月

3月



8月8日 そばの種まき



11月22日 上川そば祭り



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 4人、
3年生 2人、4年生 7人、
教員 3人

活動地域： 阿賀町中ノ沢地区

関連団体： NPO 法人お山の森の木の
学校

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



さいの神のやぐら

まず木で土台を作り、かやかりで刈り取った
かやでやぐらを組み立てた。頂点にだるまや
竹を飾り付け、お焚き上げを行った。



なめこの収穫

地域の方が栽培した天然のなめこを収穫さ
せていただき、なめこのお味噌汁を作った。
市販のものよりもとても大きい!

活動目的と概要

S ホームは阿賀町中ノ沢地域で活動しています。自然が豊かな風土と地域の方々の温かさで安らぎを感じることができるホームです。炭焼き窯やさいの神といった行事等の伝統あるものや、清らかに流れる川、大きな天然杉などの自然は地域を代表するポイントです。私たちは、地域の四季の変化に触れながら地域の方々との交流を第一にとにかく楽しむことを目標に活動を行っています。さらに、そこで得た中ノ沢の新たな魅力や発見を発信していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標：①ホームのメンバーと地域の方々の双方にとって有意義で楽しめる活動を企画し、交流を深める。②中ノ沢ならではの文化・自然を体験・発見し、それらを次の代へ繋ぐ意識を持つ。③昨年に引き続き SNS を活用し、S ホームの活動と中ノ沢地域の魅力を発信する。

達成状況：①について、今年度は制限も少なくなり地域住民の方々とも活動ごとに交流することができました。特にさいの神での懇親会では新潟大学の落語研究会の方々を招き落語を披露していただき、ホームメンバーも地域の方々も楽しめる活動を行うことができました。

②について、今年度は昨年中止となり参加できなかったさいの神に参加することができ、普段の活動ではなかなかお会いすることがなかった地域の方々とも交流することができました。また、昨年も行っていた森林散策では、樹木の種類の説明を聞きながら、森林がどのように形成されているかやその生態系についてなどを学びました。

③について、昨年に引き続き訪問ごとにInstagramでの活動報告をし、一般の方やダブルホーム内外の学生に向けた情報発信を行うことができました。来年度は更新頻度をさらに増やせるよう様々な活動を行いたいです。

【ホーム運営について】

今年度の目標は、①各訪問やシンポジウム等のイベントの担当者を明確にし、一つ一つに責任を持って取り組む。②イベント等の担当になった人は主に全体への細かい役割分担などを働きかけ、担当者の方に負担がかからないような工夫をする。

達成状況：①イベントの担当者を明確にする際、担当箇所ごとの人数配分に配慮が足らず、取り掛かりが遅れることがあり、また特定の人の負担が大きくなることがありました。②重要な役職となった人が積極的に動き、イベント等では全体への役割分担の周知を行ったため、それぞれが与えられた仕事をこなすことができました。今年度は新たな試みを行うなど昨年の活動に比べても行うことができることが増えた 1 年でした。しかし、参加できる人数が少なかったことから、ホーム内の輪を拡げるためにもより多くの学生が参加できるようにしていきたいと感じました。

活動を通して学んだこと

今年度はホームのメンバーが誰も経験したことがなかったさいの神をはじめ、他にも数回の活動をさせていただいた中で、地域の方々の理解と協力が不可欠だと感じました。これからも充実した活動ができるように活力を与えられるような活動をしていきたいと思っています。

水村 栞捺（農学部2年）

自分たちが地域でしたいこと、そしてそれを実現するまでのプロセスの中で必要なことについて活動毎に学びました。様々な状況を考慮したプランニングから、自ら考え働きかけるなどの活動上での振る舞い方について、実践を通して学ぶことができました。大変貴重な経験だと思います。

更科 凜（創生学部1年）

昨年度は木工体験や宿泊込みの活動など初めての内容に数多く取り組むことができました。計画段階で連絡をしなければならなかった場所が増えましたが学年を越えたホームメンバーの協力のおかげで成功させることができました。まだ、情報共有や役割分担などが充分でない側面もあるので、今後はより意識して活動に臨みたいです。

齊藤 琉佳（人文学部2年）

私は、いろいろな人とコミュニケーションをとることの大切さを学びました。地域の方から直接お話をお聞きすることで、地域の魅力や温かみを実感することができました。また、先輩方とお話をして、過去の活動を踏まえて新しいアイデアを出し合う時間はとても貴重だと感じました。

北村 ひな（教育学部1年）

今後に向けて

今年度の活動では、昨年度以上に対面での地域訪問、ミーティングの機会が増え、ホームメンバーおよび地域の方々との交流を盛んに行うことができました。実際に地域へ訪問し、活動を共に行うことで地域住民同士の助け合いといった地域の温かさに接することができました。また、住民の方々の地域への想いに触れることで地域での暮らしや文化を学ぶことができました。そこで、学生である自分たちが地域活動を行う意義や第二のふるさとの魅力を発見することができ、なによりも活動を楽しむことで地域との新たなつながりが生まれました。また、ホーム内でも学部、学年を超えたつながりを深めることができました。昨年からは始めたInstagramでの情報発信についても活動ごとの報告に加え、地域の魅力や四季の自然といった発信も新たに行えるよう様々なアイデアを出し合っていました。

今後も地域の方に「Sホームの学生が訪問してくれると嬉しい」と思ってもらえるような活動を心掛け、新たな活動の取り組みを行っていききたいです。

活動地域より

私は9月からSホーム窓口へ復帰。11月の「かや刈り」はOB・OGの参加が嬉しく、2月に「さいの神」を実施し、宿泊したことで、理解と繋がりが深まりましたよね。社会の基本は人と人。よく知らない土地で、初めてのひとと、初めてのことを、全てが自分の力になります。来年度は何をやりましょうか。

阿賀町長 神田 一秋 様

担当教職員より

コロナ禍を経て、ようやく地域の皆さんと本格的に活動ができた一年だったと思います。中ノ沢地区の魅力存分に味わえたでしょう。一方で役割分担と系統的連絡が今一つ共有されていなかったことも課題でしょうか。地域、学生、卒業生、教職員の更なるつながりを期待します。

経済科学部 穴戸 邦久

活動記録（2023年4月～2024年3月）

- 4月 大説明会 観桜会
- 5月
- 6月 1年生初訪問
- 7月 地域実習報告会
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月 かや刈り、木工体験
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月 さいの神、雪山散策
- 3月



6月24日 1年生初訪問



11月12日 かや刈り



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 4人、
3年生 8人、4年生 3人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 十日町市松之山地区
下川手 集落

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



コシヒカリ「しちべえ」

1年間の活動を通して、農薬・肥料を使わず、
中干しをしない、生き物との共生を目指した湿
地米「しちべえ」を、地域の方々と協働し、手
作業でつくりました。



蛍の看板

数年前に作った蛍の看板が古くなったので
新しくしました。デザインを学生が考え、制作・
設置を教職員、そして地域の方と力を合わせて
行いました。

十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ

活動目的と概要

私たちは十日町市松之山地区下川手集落で活動をしていま
す。主な活動として、農薬を使わない環境に配慮した米作り
を、地域の方々と協力しながら行っています。また、地域の
清掃活動や地域行事にも定期的に参加しています。私たちの
活動目的は「自然と共存する」ことです。米作りでは、田ん
ぼの生き物と共存するため広く用いられている米作りとは違
った作り方をしています。このように新潟の豊かな自然や生
き物を大切にしながら様々な活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

T ホームの今年度の目標は古くなった蛍の看板の新しいも
のの作成・設置としていました。新しくデザインを作り直し、
力を合わせて蛍や地域の魅力を伝えられる看板を作り上げる
ことが出来ました。看板作成は成果として地域の魅力を伝え
る手伝いが出来たと思います。また、看板作成の過程で地域
の方々との交流も増え、積極的な交流という目標も達成され
たと考えています。4～11月まではお米を作り、販売まで行
いました。この活動を通してお米の作り方に関しては、実際
にお米を地域の方々と作りながら教わることが出来ました。
成果として去年より収穫量が増えました。

課題として米作りに関わる時期とない時期で活動回数に差
があり、午後の活動も固定化されていることが挙げられます。
同じ場所に行くにしても、どのような活動をするのか目的を
もって取り組んでいきたいと考えています。

【ホーム運営について】

昼のミーティングでは、内容を精査し時間内に情報共有や
話し合いを終わらせること、負担が特定の人に偏らないよう
にすることを目標としていました。話し合わなければならない
ことや、担当しているものの進捗状況などを話し合うことが
出来ました。そして、仕事についてもミーティングに出た
人が出ていない人をお願いするなどして、割り振ることが出
来ました。ですが、担当者がいないなど、話し合うにも話し
合えない場面もありました。また、ミーティングに出ている
学生が限られており仕事ををお願いする、伝える仕事の偏りが
出てしまう場面がありました。

活動の目的を共有し、学生間の認識を統一する部分に関し
ては、どのような目的でこの活動を行うのかをミーティング
等でよく考えたうえで、実際に地域の活動に生かしていくこ
とが出来ました。ですが、こちらもミーティングに来ている
人と来ていない人で認識に差が生じることもありました。

このことから、ミーティングが、学生が集まり情報共有、
話し合いの場という認識をしっかりと持ち、参加者を増やすこ
とが課題だと考えます。

活動を通して学んだこと

初めて本格的なお米作りの体験をしました。毎回の活動から学ぶことが多く、とても貴重な体験をさせていただけていることに感謝しています。来年度は地域の皆さんと積極的に関わって、関係性をさらに深めていきたいと思っています。

渡邊 瑠奈（教育学部 1 年）

今年も、ただただ楽しく 1 年間活動してきました。3 年目となり慣れてきた作業もありますが、下川手に行くたびに初めて見るもの聞くものがたくさんあり、毎回勉強になることばかりです。学んだことを来年の新加入生に繋いでいけたらと思います。

水落 一衣（人文学部 3 年）

一年を通して行ったお米作りについては、去年よりさらに様々なことを学ぶことが出来ました。また、地域の方々・ホームのメンバーと話す機会が多く、会話する楽しさ、大切さを 1 年を通して学ぶことが出来ました。

丸山 栞里（教育学部 2 年）

4 年間の活動を経て気がつけば、ほりごたつが私にとっての大切な居場所となっていました。下川手の皆さまやホームメンバーに感謝するとともに活動を通して学んだ、人との繋がりのあたたかさや協調を忘れずにこの先も新たな場所で精進したいと思います。

阿部 結花（経済科学部 4 年）

今後に向けて

次年度は地域の方との対話を大事にしていきたいと考えました。私たちが考えていること、地域の方が考えていること、それぞれを知ったうえで活動をしていきたいと今年度のシンポジウム、振り返りを通して感じました。そして、地域の魅力発信にも力を入れていきたいと思っています。シンポジウムなどで他のホームの魅力発信の方法を学ばせていただきました。私たちが感じている地域の魅力をどのように発信するか、こちらも地域の方々の要望や考えに寄り添いながら実践していきたいと考えています。

また、私たちが発案した活動も行っていきたいです。話し合いを深く行い実際に実行に移すことで、新しい活動・体験などを積極的にしていきたいと思っています。その他にもメンバー同士の仲を深めミーティングに来やすくする、話しやすくするような活動もしたいと考えています。仲を深めることによってより良いアイデアなどが出て活動や魅力発信にもいかせるのではないかと考えています。

活動地域より

春の苗代作りから秋の稲刈りまで、ご苦労様でした。私たちは学生たちと話をするだけでストレス解消になり、癒されています。特に助かる作業が道普請で、眠いの朝早く起きて来てくれて、ありがとうございます。来年度からも、ずう～っとよろしく願いしますね。またいろんな活動に挑戦しましょうね。

松之山地区下川手集落 保坂 繁 様

担当教職員より

T ホームでの 15 年、多くの学生と出会い、そして巣立っていきました。どの学生も地域の皆さんとの交流や、興味関心を追求する中で大きく成長していきました。私もその姿を見ながらの活動を楽しんできました。後輩諸君も T ホームの伝統を引継ぎ、生き生きと笑顔で活動してってください。

医歯学系総務課 土田 秀樹

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 苗代作り
- 5 月 道普請
- 6 月 田植え、草取り
- 7 月 草取り、蛍観賞
- 8 月 道普請
- 9 月
- 10 月 稲刈り、脱穀・精米
- 11 月 美人林祭りでのお米販売、道普請
- 12 月 シンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月 送別会



10月1日 稲刈り・はさかけ



11月3日 美人林祭りでのお米販売



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 1人、
3年生 2人、4年生 5人、
教員 2人、職員 1人

活動地域： 阿賀町津川地区

関連団体： 阿賀町役場

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



↑①京ノ瀬の夏祭りにて

流しそうめんやスイカ割りなどの企画を成功させることができました。



↑②留学生との交流にて

制作物として、狐のお面を作りました。

活動目的と概要

U ホームは、阿賀町津川にて、豊かな自然、歴史ある伝統、様々な地域スポットに囲まれ活動しています。

昨年度は畑作業がなくなり、活動を再スタートしなければなりませんでした。どんなことをするかを試行錯誤する一年で、なかなか思うように活動できませんでした。地域の方たちに貢献することができるように、今年度は早くに方針を定め、何かU ホームとして通年取り組める活動を見つけ出し努力することを目的としていました。活動内容としては、地域のお祭りに参加することを決めていました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

まずは、長期的な活動目標「学生と地域の方々の交流を通して阿賀町津川地区の地域活性化に繋げる」についてです。京ノ瀬の夏祭りや、つがわ狐の嫁入り行列、留学生との交流で、地元の高校生や地域の方とかかわりを持ってました。2つのお祭りに参加し、両者とも地域の活性化につながるような活動がU ホームとしてできました。

次に、今年度の具体的な活動目標「対面活動を積極的に行い、ホーム内のメンバーや地域の方々との仲を深める」と

「長期的に U ホームとして取り組んでいくことを決定し、活動していく」についてです。前者は前段落で記述したように、お祭り参加したり、U ホーム独自のチャレンジ活動を行ったりできました。積極的な対面活動を通してホーム内メンバーはもちろん、地域の方との仲も深めることができました。後者については、7月の地域実習報告会にて、「空き家を有効活用する」という課題が出ました。これを U ホームとして長期的に取り組む活動にすることは決定できました。しかし、この空き家プロジェクトはまだ話し合いの段階で、実際の活動フェーズには移行できていない状況です。

【ホーム運営について】

長期的な目標は、「・学年を超えた話し合いを行いやすい雰囲気づくり・全員が協力して物事に取り組めるような体制づくり・ホーム内で活動目的や目標などの共有」でした。具体的な目標は、「・ホーム内での交流を増やし、チームワークをより良いものにする・全員で活動するという意識を一人一人が持ち、一人に負担が偏らないようにする」でした。実際のホーム運営としては、新入生一人一人に役割分担をし、SNS 係やミーティング報告係、ミーティングの議事録係などを決めました。具体的な役割を振ることで、負担の偏りなども出ず、スムーズなミーティング、議事録や実習活動の報告・振り返りができました。課題としては、昨年度と同じように、参加率の低下が挙げられます。これにより、特定の人だけに仕事を振ることになったり、メール共有がおろそかになっていたりした部分がありました。

活動を通して学んだこと

1年間Uホームでの活動を通して、阿賀町にはたくさんの魅力的な場所があることを知ることができました。また、地域の方々との交流を通して、阿賀町の良さや問題点を知ることができました。今後は阿賀町を活性化させるために多くの活動を計画して、たくさん訪問出来たらいいなと思います。

石山 琴美(農学部1年)

この1年間はUホームで狐の嫁入り行列に阿賀町4ホーム合同で参加、京ノ瀬地区の方々と夏祭りを行うなど様々な挑戦をした1年でした！その中で阿賀町津川の魅力を再発見することができ、Uホームにとって進歩の1年となりました。今後も地区の皆様と一緒に活動を盛り上げて行きます！

藤原 功気(経済科学部3年)

今年度はコロナ禍に中止されていた地域のお祭りなどが復活し、昨年度よりも積極的な活動ができ、有意義な1年間でした。後期の途中からはホーム長としてUホームを運営していく立場となり不安もありましたが、ホームのみなさんや地域の方のおかげで協力することの大切さを再実感できました。

佐藤 翔太(経済科学部2年)

今年度は4年ぶりにつがわ狐の嫁入り行列が開催されたり、地域のお祭りに参加できたりとコロナで制限されていたことが行えるようになったのが本当に良かったです。これからは益々活動的に地域の人と交流し、阿賀町を盛り上げてほしいです。

山下 結希乃(経済科学部4年)

今後に向けて

シンポジウムを通して、Uホームは地域の日常的な活動にもう少し参加するべきなのではという意見が出ました。1回1回の活動のハードルを下げ、座談会など、地域の方と話し合うだけの場や食事会などを設けることができればよいと考えています。そうすることで、学生と地域の方との仲を深めるのはもちろん、活動計画や振り返りも、より地域と密着した形で行えると考えています。具体的には、地域の定例会議などにオンラインで参加させていただいたりするところから始めていければと思います。

空き家プロジェクトについては、地域の方が購入された空き家で何かできないかと考えています。まずは、空き家の見学などを通して、Uホームが津川地区の活性化のためにできることを模索するところから始めます。ほかの地域でも空き家問題は深刻で、課題解決の第一歩として、ホームによっては空き家に宿泊したということもシンポジウムで共有されました。Uホームの長期的な活動は空き家プロジェクトに決定できたので、来年度からは実際の活動フェーズへ移行し、課題解決、地域活性化に向けての活動を進めていきたいと思います。

活動地域より

ついにコロナ明けを感じる1年でしたね！来年度は何する？阿賀はばちばち山菜が採れ始め、4月には畑が始まり、5月は観光客も多いです。6月は狐の嫁入り行列も！あっという間です。町に乗っかり、好奇心を持って、妄想ひとつひとつを実験的に実現していきましょうー！

阿賀町津川地区 平原 理紗子 様

担当教職員より

今年度は、地域の神事や行事への参加のほか、留学生との交流というチャレンジングな活動も行い、地域の方や地元高校生との新たな関係を構築できましたね。学年を超えて仲の良いUホーム、引き続き活動の基軸を模索しながら、来年度も楽しく活動してください！

社会連携課 井関 智加

活動記録(2023年4月～2024年3月)

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 街歩き
- 7月 地域実習報告会
- 8月 京ノ瀬夏祭り
- 9月
- 10月 つがわ狐の嫁入り行列
- 11月
- 12月 留学生との交流
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 今年度の振り返りと次年度計画のための地域訪問



6月17日 麒麟山酒造見学(街歩きにて)



10月8日 つがわ狐の嫁入り行列



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 9 人、2 年生 1 人、
3 年生 2 人、4 年生 2 人、
修士以上 1 人、教員 2 人、
職員 1 人

活動地域： 糸魚川市小滝地区

関連団体： ひすいの郷つくる会
糸魚川市役所

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



笹寿司（郷土料理）

10 月訪問の際に、地域の方に教わりながら、笹の葉の収穫、食材の買い出しから行いました。1 日目は笹を洗って乾かし、2 日目に食材を調理して作りました。作った笹寿司は地域の方と一緒に食べました。



小滝地区紹介パンフレット

糸魚川市や小滝地区の概要やアクセス方法を載せたり、今年度の活動を通して V ホームが訪れた場所からおすすめを紹介したりしています。

活動目的と概要

糸魚川市小滝地区は、地質学的価値を認められた自然の見どころが複数あり、そのジオサイトの 1 つ小滝川ヒスイ峡があるように、限られたヒスイ産出地の中の一か所です。V ホームでは「小滝地区の周辺部からの交流人口や認知を増加させること」を目的として、地域訪問の際に地域の方と交流し親睦を深めたり、フォッサマグナミュージアムで翡翠やジオパークのことを学んだりしました。そして、今年度の作成物として小滝地区の紹介パンフレット作りに取り組みました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

V ホームは今年度、①今後の活動の軸となる企画を活動地域との相談の上作る。地域にちなんだかるた制作や、動画作成、瓦版の定期作成、四季の観光ガイド作成等から 2 つは実行に移す、②地域の皆様と一緒に笹寿司を作る、③地域の方々とさらに気軽にお話しできるような関係を作っていく、の 3 つを活動目標として立てました。

①については、前述した 4 つのものの中で実行できたものはありませんでしたが、今年度の活動の集大成として糸魚川市と小滝地区の紹介や小滝地区のおすすめスポットを載せたパンフレットを作成しました。制作したパンフレットはお世話になっている地域の方に配ったり、来年度以降の活動の際に活用したりすることを考えています。②については、10 月訪問の際に地域の方に教わりながら協力して笹寿司作りを実行することができました。また、この訪問ではコロナ前に行っていた宿泊を復活させることができました。③については、今年度は昨年度よりも多く地域訪問をすることができ、地域の方と顔を合わせる機会をたくさん持てたと感じています。

【ホーム運営について】

「質の高いミーティングを行うようにする。議事録を Google Drive にまとめて遡りやすく、参加していなかった人も見やすいようにする。また、Google Jamboard 等のツールを導入するなどにも検討する。また、ホームメンバーの関係性を深めるためにミーティング前後のアイスブレイクや雑談タイムなども検討する。多くの人が参加しやすいように柔軟にミーティングの日程を組む。」ことを目標にホーム運営を行いました。

今年度のミーティングは一番人数が集まる曜日を決めて平日の昼休みに週 1 回の頻度で行いました。意見を出し合う時間を十分に取り、質の高いミーティングを行いました。Google Drive や Google Jamboard は使わず、議事録は毎回大学のメールを使って、V ホームメンバー、担当教職員の方々、地域の方と共有しました。アイスブレイキングは一時期取り入れていましたが、活動を重ねるにつれて自然とメンバー間の仲も深まりました。また、長期休み時のミーティングは必要であれば時間帯も要望を取りながら柔軟に Zoom ミーティングを開催しました。

活動を通して学んだこと

今まで訪れたことのなかった糸魚川市や小滝地区について、様々な活動を通して知ることができました。また、地域の方やホームのメンバーなど、多くの人と関わることで自分には無かった考えや価値観に触れることができ、交流することの大切さを実感しました。

小塚 龍真（法学部 1 年）

私はこの活動から多くのことを学びました。1 つ目は、地域の人の優しさです。私たち大学生に気さくに話しかけてくださり、私たちの活動において地域の方の力を大きく感じました。2 つ目は、仲間と協力することの大切さです。活動を通して一人ではできないことを仲間と乗り越えることができました。

桜沢 昊英（経済科学部 1 年）

小滝の様々な側面や変化と向き合う一年でした。今年度の活動では、小滝に住む方とお話を通して、地区の中での生活が如何にして成り立っているのか知れたことが、大きな学びの一つだと感じています。来年度も、暮らしや観光の側面から、小滝地区と関わればと思います。

西澤 ひなた（理学部 3 年）

ホームとして新しいものを作り上げることや調整の難しさを学ぶ 1 年でした。一方、地域の方との笹寿司作りや従来の行程からのアレンジなどで、訪問にバリエーションを持たせられました。我々学生も興味を深められ、画一的でなく、新鮮で多様な活動を作る必要性を強く感じました。

木村 駿斗（経済科学部 3 年）

今後に向けて

今年度は昨年度よりも多く地域に足を運べたことで、糸魚川市小滝地区のことをより肌で感じ、地域の方々たくさん触れ合えました。また、念願の笹寿司作りを実行できたことを含め、V ホームらしい活動をできたと思います。また、11 月訪問と 2 月訪問では他のホームからも参加者を募集し、一緒に活動して V ホームの活動や小滝地区の魅力を伝える機会を設けました。来年度は、他ホームからの参加者の募集期間をより長くして多くの人に参加してもらえるようにしたいです。そのためにも活動計画を効率よく行っていきます。

加えて、昨年度の課題に引き続き、ダブルホームシンポジウムの準備のときなどに人員不足を感じました。来年度は新入生を十分確保し、継続して活動に参加してもらうためにホーム内の楽しい雰囲気づくりをし、やりがいのある活動作りにさらに力を入れていきたいです。また、今年度は活動計画の準備が遅れたり、地域の方との連絡のやり取りがこちらの都合で円滑に進められなかったりしたことがありました。それらを改善するために、来年度は上級生から下級生へ活動を計画する際の手順や地域の方との連絡の取り方などの引継ぎをしっかりと行い、学年関係なくホーム運営に関わって、よりよい活動をしていきたいです。

活動地域より

V ホームの皆さんには地域実習や調査を通して小滝地区の魅力を大に感じていただきました。学んだことを存分に PR していただければ嬉しいです。また、皆さんの若い力は地域に大きな活力を与えています。地域活性化につながるような斬新なアイデアや企画をこれからも期待しています。

糸魚川市企画定住課地域振興係 五十嵐 大樹 様

担当教職員より

プロジェクト教員として、2011 年に V ホームを立ち上げました。これまでの 10 年あまりの期間に、多くの学生が巣立っていきました。彼らは V ホームでの体験を生かして、社会の一線で活躍していることと思います。現役の皆さんには、新たなホームの歴史を刻んでいかれることを期待しています。

理学部 松岡 篤

活動記録（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 地域訪問（たかなみまつり）
- 7 月 地域訪問（散策、知図作り）
地域実習報告会
- 8 月
- 9 月
- 10 月 地域訪問（フォッサマグナミュージアム、笹寿司作り、翡翠探し）
- 11 月 地域訪問（小滝ウォーキング）
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月 地域訪問（スキー体験）
- 3 月 地域訪問（レクリエーション、懇談会、市役所訪問）



9 月 30 日・10 月 1 日
笹寿司作り



2 月 18 日 スキー体験

新潟大学ダブルホーム 2023 年度 活動報告書

発行日 2023 年 9 月 30 日

発行者 新潟大学 教育基盤機構 未来教育開発部門
ダブルホーム支援室

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
総合教育研究棟 B454

TEL : 025-262-6309

FAX : 025-262-6991

E-mail: home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷 富士印刷株式会社



新潟大学ダブルホーム

ソーシャルメディアをチェック！

ダブルホームの活動の様子を配信中！

Homepage



X(旧 Twitter)



Instagram



Facebook



リサイクル適性[Ⓐ]

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。